

沼津高専だより

第99号

平成23年7月5日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL <055> 921-2700

国立沼津工業高等専門学校 平成23年度 入学式



進化する高専



沼津高専は、2012年に創立50周年を迎えます。

題字：柳下福藏 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	3
☆新年度にあたって（年度方針等）	
新年度のごあいさつ—新教育課程（学際教育）の導入に向けて—	校長 柳下 福藏 …… 4
平成23年度始めにあたって	副校長（教務主事） 大島 茂 …… 4
新年度にあたって	校長補佐（学生主事） 蓮 實文彦 …… 5
新年度にあたって	校長補佐（寮務主事） 遠藤 良樹 …… 6
新年度を迎えて	校長補佐（専攻科長） 遠山 和之 …… 7
国際交流・留学生・FD	校長補佐（国際交流・FD担当） 大久保清美 …… 7
沼津高専の新たな教育が平成24年度よりスタートします	
—混合学級と学際教育の導入—	校長補佐（学際教育担当） 押川 達夫 …… 8
機械工学科の近況報告	機械工学科長 小林 隆志 …… 9
平成23年度の電気電子工学科	電気電子工学科長 望月 孔二 …… 9
平成23年度にあたって	電子制御工学科長 川上 誠 …… 10
平成23年度を迎えて	制御情報工学科長 長谷 賢治 …… 11
物質工学科 平成23年度にあたって	物質工学科長 芳野 恭士 …… 12
平成23年度の教養科	教養科長 西垣 誠一 …… 13
☆人事異動について	
平成23年度人事異動	14
平成23年度校務分掌	15
平成23年度学級担任	15
平成23年度学生会・クラブ・同好会顧問教員	16
平成23年度学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー	16
☆着任挨拶	
沼津高専に赴任して	教養科 鈴木 久博 …… 17
自己紹介と抱負	教養科 鈴木 正樹 …… 17
学生寮の2ヶ月が過ぎて	教養科（寮監） 福木 洋一 …… 18
自分の強みを見つける	電子制御工学科 出川 智啓 …… 19
母校での再会	電子制御工学科 大沼 巧 …… 19
寢覚ノ床	制御情報工学科 市川 周一 …… 20
着任の御挨拶	事務部長 上原 正宜 …… 21
富山から沼津へ	総務課長 五条 寿久 …… 21
☆新入生から（入学にあたり）	
沼津高専寮～僕の初体験レポート～	電子制御工学科1年 五十棲 拓倫 …… 22
私の生きる「みち」	制御情報工学科1年 後藤 志侑子 …… 22
☆卒業生から	
高専の卒業生として…たえずチャレンジする心…	電気電子工学科12期 河合 庄二 …… 23
高専で得たもの	電子制御工学科20期 遠藤 友和 …… 24
☆留学生から	
はじめまして	電気電子工学科3年 ホー・ウィー・リアム …… 25
皆さんと友達になりたいです	物質工学科3年 ラディスティア・エカヤントリ・ズリキフリ …… 26
☆寮生会活動について	
寮生自治と寮生会活動	電子制御工学科4年 寮長 片山 晃次郎 …… 26
☆第21回ヤンマー学生懸賞論文部門優秀賞受賞報告	
ヤンマー学生懸賞論文部門優秀賞を受賞して	電子制御工学科5年 高村 嘉門 …… 27
☆私の高専時代	
高専時代の思い出	機械工学科 西田 友久 …… 28
☆教育後援会から	
会長就任のご挨拶	教育後援会会長（E5） 川口 淳子 …… 29
新世界へ	新入生保護者（D1） 岡田 浩孝 …… 29
かわいい子には旅をさせろ	新入生保護者（S1） 鈴木 直人 …… 30
☆事務部から	
平成23年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	31
平成23年度（8月～3月）行事予定表	32

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

新年度にあたって (年度方針等)



新年度のごあいさつ —新教育課程(学際教育)の導入に向けて—

学校長
柳下 福藏

このたびの東日本大震災で被災された仙台高専、一関高専、福島高専、茨城高専の学生諸君及び教職員の皆様に衷心より早期の復興を祈念します。

さて、全国の国立高専が平成16年度に独立行政法人化して第1期5年間が経過し、第2期の3年目に入りました。高専機構の第2期中期目標は、中央教育審議会答申(平成20年12月)『高等専門学校教育の充実について』に提示された下記4項目の方向性をそれぞれの高専が具体的に進める指針を提示しています。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

沼津高専は平成21年度以来、高専機構の第2期中期目標に則って年度計画を策定し、年度末に計画達成状況の自己評価を運営諮問会議(外部有識者を含む)の諮問を経て本校ホームページに公開しています。

「それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応」する必要性は誰もが認めるところであります。本校は昨年度、「将来検討ワーキング・グループ」が1年間の審議を経て産業構造の変化に対応するための教育課程改定(案)を策定しました。

新教育課程は、社会経済環境がエネルギー、環境、医療・福祉分野を重視する方向に急激に変化していること

に対応するために、既存の専門教育を重視しつつ「学際教育」を行うものであります。具体的には、1年生は学科の枠をこえた混合学級編成として全学生が専門5学科と実習工場の実験・実習を全て体験します。2年生からは専門学科の学級編成になりますが、教養科教員も含む全教員が2年生全員を2～3名毎に分け、各々の研究課題を指導するミニ研究を行います。3～5年生は所属学科の専門基盤教科と学際分野(環境・エネルギー分野、医療・福祉分野、新機能材料分野)のいずれかを選択して学際教科を受講することになります。この「学際教育」の新教育課程は平成24年度入学生から適用されます。

産業界や地域社会との連携に関しては、地域共同テクノセンターを核として地域企業との共同研究・受託研究・技術相談などを引続き活発に進めていき、企業技術者(OBを含む)に学生のものづくり教育に参加していただく「企業技術者等活用プログラム」(共同教育)は、1年生からのキャリア教育を取り込んだ内容にブラッシュアップして本年度も継続してまいります。

沼津高専が県の東部地域再生計画と連携して平成21年度から実施している「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(文部科学省事業・地域再生人材創出拠点の形成)」は3年目に入りましたが、静岡県をはじめとする関係機関のご支援により順調に進展しています。文部科学省の支援が終了する平成26年度以降は地域産業界の要望と学生の希望に応えるために、専攻科に「医用機器開発エンジニア養成コース」を新たに設置する方向で検討を進めています。このことは、高専機構の第2期中期目標に明示されている「専攻科の拡充および分野の拡大」を具現化するものであり、文部科学省や高専機構が全国的にも注目しているところであります。

ともあれ、沼津高専は地域との連携を一層強化しつつ、産業構造の変化に積極的に対応するための改革を不断に進め、人柄のよい優秀な学生の育成はもとより、県東部地域に唯一の工科系国立高等教育機関としての使命を着実に果たしていく所存であります。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして新年度のごあいさつといたします。



平成23年度 始めにあたって

副校長(教務主事)
大島 茂

今年度も教務主事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。東日本大震災により計画停

電という異常事態の中で新年度が始まりました。通学困難者への対策と実験・実習に対する対応策を急ぎ策定し新年度開始に備え、計画停電の時間帯を避けて午前中に実験・実習を実施するよう組み直した予備の時間割を作成しました。幸いにも1度適用しただけで計画停電は解除されましたが、今後夏場に向けて電力使用量の15%削減が必要となってきます。予備時間割の適用もその対策の一つとして考えているところです。

年度の始めにあたり、この一年間特に力を注ぎたいと

考えていることを述べさせていただきます。まずは、昨年度に引続き留年・退学者の数を減らすことです。学級担任を始め各科目担当教員の根気強い指導により、平成21年度に比べ22年度は留年・退学者を約3/4に減らすことができました。しかしまだその数は多いです。低学年の学生の中には、ノートの取り方や勉強時間の確保の仕方など適切な勉強方法が身につけていないことが原因で、学力不振となり意欲を失ってしまう学生が多々見られます。教えられるままに受け止めるだけ、という他力本願の勉強方法では高専の学習には通用しません。自ら努力して学ぶという姿勢が必須です。時間をかけ、たくさんの練習問題を自分の力で解いてみるという勉強方法が不可欠です。

昨年度は、1年生で数学の力が心配される学生に適切な勉強方法を身につけさせることを目的に、教育経験豊かな非常勤講師による補習授業を実施し効果をあげました。今年度も中間試験後の成績をみて補習を必要とする1年生に対して実施します。それに加えて今年度は、教務関係教員でチームを組み、非常勤講師と専攻科生の協力も得て、2、3年生を対象に学習支援を実施します。不合格科目を多く抱える学生と留年生を対象に、各自の不得意とするところを自己分析させ、それを克服するための勉強方法をアドバイスするなどの支援をします。現在抱えている過年度の不合格科目は再評価を受けて合格にする必要があります。特に必修科目は5単位以上不合格ですと進級できませんし、卒業するためには全ての必修科目に合格していなければなりませんので、再評価で合格するよう学生達に強く指導しています。不合格科目をもつ学生に対しては、ご家庭でも是非注意をして頂

れば幸いです。

本校では、平成24年度入学生より新しい教育カリキュラムを導入します。エネルギー、環境、医療・福祉を重視する社会と産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成するために、低学年においては従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるように混合学級編成とし、高学年においては所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるように教育課程を改変します。学内ではそのためのワーキンググループを組んで鋭意準備を進めているところです。産業界に必要とされる有為な人材を送り出すことが高専の使命である以上、産業構造の変化に対応した変革は常に必要なことです。

最後に、入学志願者増に向けた努力です。昨年度も1日体験入学、中学校訪問、進学説明会、公開講座、出前授業など多くの広報活動を実施し、1日体験入学と高専祭では浜松地区に送迎バスを出し、高専祭ではミニ体験授業を新企画として実施しました。今年度は「中学生のための体験授業」をさらに新企画として追加し、入試制度の見直しも行います。多くの入学志願者を得て高い志願者倍率を維持することは、優秀な学生達を集めることに繋がり、また在学中の学生達にも良い刺激を与え、良い学習環境を提供することにも繋がります。一方、多くの入学志願者を得るためには、広報活動も大切ですが、在学中の学生達が安心して生き生きと学ぶ学校であること、そして、そのことが在学生から自然に外へ発信されることが大切かと思えます。そのような学校であるよう最善を尽くして参りますので、ご理解とご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。



新年度にあたって

校長補佐（学生主事）
蓮 實 文 彦

本年度も昨年度に引き続き学生主事を担わせて頂くこととなりました物質工学科の蓮實文彦です。私の他、主事補3名、学生委員6名、それに学生課学生係の職員を中心とした連携で学生関連の業務に臨んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度の学生関連業務の指導目的を、「学生が落ち着いて勉学し積極的に課外活動できる環境の提供」とし、「安全を重視した学生支援、学生のモラル向上、総合学生支援センターの設置・運営」の3つを目標といたしました。通学中やクラブ活動中の重大な事故は無く、総合学生支援センターの設置・運営に向けては、学校全体で「学生キャリア支援室」設置構想が認められるなど、一定の成果が得られました。しかし、この間、残念ながら22名も

の懲戒処分を受ける学生が出てしまいました。私どもの指導不足を感じた1年間でありました。

本年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い人命が奪われると同時に、福島第一原発事故など国難とも言える大災害が発生してしまいました。このような中、被災された方々の冷静で沈着な秩序ある姿が国際社会から称賛されています。それを象徴するエピソードの一場面が、被災数日後に救出されたおばあさんの第一声「ご迷惑をおかけし、すみません。」です。この言葉に表れているように、私達日本人は、営々として人に感謝する美しい生き方を保ってきました。しかし、優れた入学生を迎え入れている我が校でさえ、日本人の「美しい生き方」が急速に失われているように感じます。

本校は来年、創立50周年を迎えます。この間、初代校長 井形厚臣先生の遺訓「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念に掲げ、この理念に叶った多くの卒業生を輩出してまいりました。この実績は、卒業された方々と先輩教職員の弛まぬ努力の成果でした。

私達学生指導を預かる教職員スタッフは、本校の教育

理念のうち「人柄のよい」を担当しているものと考えています。この「人柄のよい」は先に書いた救出されたおばあさんの言葉に代表される周囲の人々の気持ちを思い「迷惑をかけない、感謝する気持ち」ではないかと考えます。この精神が育てば、「学ばなければならない」の気持ちを育てることに直結します。これこそが、真の学力ではないかと感じます。では、学生諸君に日々の生活の中で、学べる事、クラブ活動ができる事、五体満足で生きている事への感謝をどのように伝えるか…。

本年、試験的に低学年へのキャリア教育を導入する予定です。自分は何が好きで、何が得意で、どんな人生を送ろうとするのか？どんな大人になるのか？徹底的に自分をさがしてもらう。そのヒントは先人です。先人の生

き様を調べ発表し友達と議論する。何度もこの活動を繰り返して、その間に自分を探っていく。次に会社を調べる。どんな会社がどのような志をもって設立され発展したのか？その間の経営危機にはどのようなものがあつたのか。それはどのようにして克服されたのか。またはどうしたから潰れたのか。つまり、自分は何者でどこへ向かおうとするのかを早い段階で明確にしておうと考えています。その原動力が「感謝」であると考えております。

新たななる使命に満ち、日本の工業振興に寄与できる学生を育てるべく、本年も学生支援を通じ努力して参る所存です。今年度も、保護者の方々のご理解とご支援をお願いいたします。



新年度にあたって

校長補佐（寮務主事）
遠藤 良樹

昨年度に引き続き寮務主事を併任いたします教養科（数学）の遠藤良樹です。微力ながら皆様のご協力、ご理解を得て務めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

今年度は、寮生564名（男子491名、女子73名）でスタートしました。内訳は第1学年210（34）名、第2学年160（19）名、第3学年115（16）名、第4学年60（3）名、第5学年19（1）名、この中にはアジアからの留学生が10名含まれています（括弧内は女子人数で内数）。

寮務関係教員は総勢15名です。主事1名、寮監1名、主事補3名、委員10名で寮運営にあたります。寮監に昨年度末で定年退職された牧野先生に代わりまして、新しく福木洋一先生（教養：日本史がご専門）を迎えました。福木先生は稲取高校校長を前年度まで務められた経験豊富な方で精力的に学生指導にあたられております。主事補は西村先生（電気電子）、佐藤崇徳先生（教養）、中道先生（総合情報副センター長）にお願いしました。委員の先生方も含め今年度も棟顧問を務めていただき寮生指導を行います。なお委員の中に3名の新任の方、鈴木正樹先生（教養：数学）、出川先生、大沼先生（いずれも電子制御）をお迎えしました。新しい風が吹き込んでいる印象です。寮務係は昨年度から引き続き佐野係長1名が常勤で他に3名の補助の職員が学生の対応に親身になってあたっております。

寮生会は今年度もすばらしい働きをみせています。その寮生会の3役を紹介いたします。寮長は片山晃次郎君（D4）、副寮長は川口直輝君（E4）、松永信之介君（E4）の2人です。片山君は昨年度光峰棟長で今年度寮長に選出されました。川口君（前年度秀峰棟長）、松永君（前年度マテカ長）と3人で寮生会を牽引してくれていま

す。他に本部役員23名、計26名の意欲と能力がある学生が今年度の寮の中核を形成しております。

活動報告を簡単にいたします。

4月：入寮式、開寮式、寮生総会、親睦会、防災訓練

5月：寮祭前夜祭、寮祭

この間に朝礼2回、木曜会（教員と寮生会との合同会議）を3回行いました。入寮式の日には寮生会の働きにより新入生の荷物搬入も無事終了しました。親睦会も雨で当初予定していた翌日に行われましたが、こちらも無事楽しく終了しました。防災訓練は地震を想定したもので、注意情報、予知情報が発せられたという想定で訓練を行いました。いくつかの問題点も浮かび上がってきましたのでこれからの訓練に活かし改良していきます。そして寮最大の行事、寮祭も今年は天候に恵まれ柳下校長をはじめ多くの保護者の皆様、教職員、卒業生、近隣にお住まいの方々の来場を得まして盛況のうちに終了しました。お越し下さった方々にお礼申し上げます。今回は記念すべき50回目の寮祭なので歴代の寮長に案内を出しました。これで寮の行事は一段落し、寮生は前期中間試験に向け勉学に励む体制を整えております。（このお知らせがお手元に届くころは試験も終わっておりますが）

寮と地域連携の一環として2009年度から始まりました長泉北中学校学習支援は、引き続き今年度も実施する予定です。寮で行っているマテカ（上級生が下級生の勉強の面倒を見る）とともにこれからも続けていくことができたらと思います。さらに今年度はより積極的に月1回程度北中の生徒（希望者）を休日、寮に来てもらい学習支援を行う計画もあります。

話は変わりまして寮の暑さ対策の一環として、全居室の空調整備が今年度から始まることをお知らせいたします。まず今年度は、女子寮の全居室にエアコンが設置される予定です。このエアコンはリースによるもので、寮生の保護者の方にはリース料金をご負担して頂くことになると思います。ご理解ご協力お願い申し上げます。エアコンのほかにも中廊下がある棟の換気改善、遮光フィルムの施工なども実施する予定です。

最後になりますがこの度の東日本大震災の影響により懸念されておりました計画停電に対する寮の対応ですが、食事、風呂、点呼、外出、トイレなど多少の生活時間の変更を余儀なくされますが、ほぼ通常どおり生活できる

体制が整いました。夏場にかけて、もし停電が実行されてもご心配いりません。

では今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



新年度を迎えて

校長補佐（専攻科長）
遠山 和之

今年度より芳野前専攻科長より専攻科長を引き継ぎました遠山です。専攻科長代行を電気電子工学科 高野教授に、企画運営委員を機械工学科 新富准教授、電子制御工学科 大庭准教授、制御情報工学科 鈴木康准教授、物質工学科 竹口准教授、物質工学科 藁科講師、教養科 松澤講師にお願いしました。この8名体制で専攻科の企画運営を進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

このたびの東日本大震災により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。平成23年3月11日に三陸沖を震源に発生した国内観測史上最大のM9.0の巨大地震及びその後東北地方を襲った津波と火災は、広範囲に甚大な被害を与えました。また、これを端として発生した福島第1原子力発電所の事故は、周辺地域に生活する多くの人々の生活を一変させました。東京電力管内である富士川以东の静岡県東部地区において計画停電が実施されたことや、震災2ヶ月後の5月に中部電力管内の浜岡原子力発電所も国からの運転停止要請があり、安全対策が図られるまで運転を停止することになったことは記憶に新しいところです。専攻科生にとっても今回の地震は、大きな体験であったと思います。短期的には、節電、寄付、ボランティア活動等が考えられ、実際に行動に移した行動力のある学生も少なくないと思いますが、この体験を教訓として、中長期的に技術者として「何をすべきか」、「何ができるのか」を常に頭の片隅において行動し、「世の期待に応える優秀な技術者」となって欲しいと考える次第です。



国際交流・留学生・FD

校長補佐（国際交流・FD担当）
大久保 清美

前年度に引き続き、国際交流の推進、留学生の指導、教員の能力向上を図るための「教員FD (Faculty Development) 研修会」の企画立案・実施等を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本校専攻科は平成8年に設置され、本年度で16年目を迎えます。4月に新入生27名を迎え、1、2年生を合わせて62名の学生が在籍しています。本年度の専攻科自治会の自治会長は制御・情報システム工学専攻2年の早苗駿一君です。専攻科の担当教員は66名で、手厚い指導による少人数教育を実践しています。専攻科は本科4、5年の教育課程とともに「総合システム工学」教育プログラムを構成しており、本科・専攻科での専門分野の教育を基礎に、現代の産業ニーズに合った境界領域にも目を向けることのできる技術者を育成することを目指し、平成16年度より日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。工学倫理やインターンシップを必修科目とし、より高い倫理観を身に付けた技術者の育成にも努めています。昨年度は、財団法人海外貿易開発協会や高専機構が募集する海外インターンシップに応募し、長期休業期間中にフィリピンやスイスで海外インターンシップを体験したり、ロボットコンテストの技術協力でケニアに渡航したりと、積極的に海外で活動した専攻科生がおります。これらの専攻科生の後に続き、本年度も、沼津高専で身に付けた技術を糧に海外に積極的に挑戦して欲しいと考えています。

専攻科生の進路については、昨年度は、27名の学生が修了し、そのうちの16名が就職、10名が進学を果たしています。世界的な経済不況が続く中、企業の求人状況は決してよいとはいえませんが、専攻科もその知名度が徐々に高まってきたためか、専攻科生を対象とした推薦募集も増えてきています。一方、大学院による専攻科生の受け入れ状況は、高専出身者の高い能力が定評を受けており、例年大変に活発です。毎年、数校の大学院の先生方が本校に説明にお見えになります。本校専攻科では今後とも、学生や社会にとって一層魅力のある教育課程を提供することを目指して努力して参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、国際交流については主に二つの仕事があります。一つは、本校学生を夏の短期語学研修に派遣することです。今年度は3年生5名、4年生1名、合計6名の学生が、9月4日(日)～18日(日)の間、アメリカ・シアトルでホームステイをしながら英語学校に通い、同時にさまざまな異文化体験をする予定です。

国際交流の仕事の二つ目は、高専機構等が主催するさまざまな国際交流プログラムに積極的に参加することです。具体的には現在、高専機構が学術交流協定を結んでいるシンガポールの3ポリテクニクおよびタイのキングモンクット工科大学の学生の短期留学プログラム（受

入れ)を計画中です。また、機構主催の「海外インターンシッププログラム」にも昨年に引き続き、専攻科生を積極的に応募させるつもりです。なお、8月8日(月)~26日(金)の間、ライオンズクラブ国際協会主催「2011年度夏季青少年海外派遣」事業の奨学生として、専攻科1年生1名がドイツで研修を行います。さらに、富山高専との共同プログラムとして8月18日(木)~9月15日(木)の間、専攻科1年生1名が英国・北アイルランドのSouth Eastern Regional Collegeで国際インターンシップを行う予定です。

在籍するアジアからの留学生は今年度、新たに6名(うち女子2名)の3年次編入生を迎え、全部で10名になりました。新しく来た3年生の中には、福島高専に編入学予定だったマレーシア政府派遣留学生1名も含まれています。これらの留学生については例年どおり、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を実施するとともに、東海地区高専留学生交流会(スキー研修)にも参加する予定です。また、昨年から機構本部が推進し始めた私費

留学生の受け入れについては今年度、本校は受け入れを見送りましたが、他高専の受け入れ状況を精査したところ問題ないと判断されましたので、来年度からは受け入れの方向で機構本部に回答する予定です。

教員FD研修会については、その実施が高専機構の第2期中期目標・中期計画に明記されているところであり、本校においてもそれに沿う形で年4回実施する予定です。5月の第1回目は「学級経営に生かすQ-U」、7月の第2回目は「一般科目と専門科目との連携-授業実践例をもとに-」、10月の第3回目は「(第2回)メンタルヘルス」、12月の第4回目は「標準的面接技法-理論と実際-」をテーマに行う予定です。毎回、外部講師に基調講演をお願いし、その後パネルディスカッションを行う、シンポジウム形式で行います。パネリストには外部講師に加え、テーマ毎に適宜、本校教員を選ぶ予定です。この研修会が少しでも本校教員の教育力向上につながることを願っています。



沼津高専の新たな教育が平成24年度よりスタートします -混合学級と学際教育の導入-

校長補佐(学際教育担当)
押川 達夫

産業構造の変化等を踏まえ、「想像力に富み」、「人間性豊かな技術者の育成」という視点にたって、教育内容を不断に見直す必要があります(第2期中期計画)。このことは本校の平成21年度運営諮問会議において外部運営諮問委員からも指摘されたことであり、平成22年4月に学内に将来検討ワーキンググループを立ち上げ約8ヶ月の審議を経て本教育課程改定(案)をまとめるに至りました。これらの背景として、昨今の急速な産業構造の変遷のもとに、例えば石油を燃料とする自動車から電気自動車または燃料電池車へと移り変わるなど、本校だけでなく工業高等専門学校を取り巻く様々な技術発展の過渡的時代に直面していると判断されます。

本校は、中学校卒業の入学生に早期の「ものづくりキャリア教育」を目指し、各学科が「導入教育」と称して1年生に専門導入基礎実験(座学を含む)を実施してきました。しかしながら、エネルギー、環境、医療・福祉を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成していくために、低学年においては、従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるように混合学級編成とし、高学年においては所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるように教育課程を改定し、ひいては優秀な受験生を継続的に確保する少子化対策を目指すこととしました。このことは、現行の学科縦割り教育カリキュラム体制の問題点

を解消し、併せて早期専門選択に自由度をあたえるものです。本校としては、創立50周年を迎える平成24年度入学生から、混合学級と学際教育を導入した新教育課程を実施していきます。

学際教育導入の目的とその意義について書かせていただきます。産業界における人材需要、学生ニーズの変化等に対応するため、従来の学科を横断する学際分野の専門科目を教育課程に導入することとしました。学際教育は、従来より幅広い専門分野の知識と技術を備えた人材の育成を目標とします。即ち、従来の一つの専門を深く教授するエンジニア教育に対して環境・エネルギーや医療・福祉、新機能材料等の学際的分野に対応できる幅広い知識と深い専門性を備えたエンジニアの輩出が産業界から望まれていることに対応するものです。

学際教育の導入は高専教育制度の特徴である進路の多様性を生かしつつ産業構造の変化に対応するエンジニアを育成するものであり、本科生の大学編入学に対しても従来通り対応できます。なお、新教育課程の学年進行に伴い、専攻科の教育課程の見直しを行う予定です。その一方、平成23年度入学生に対して、前倒しで「ミニ研究」を2年次に実施いたします。これは、全教員が全2年生のミニ研究指導教員となり、「自ら学び、自ら課題を解決する」PBL教育を実施するものです。これらのミニ研究活動を通して、本校学生がさらに創造性豊かに成長する基盤作りとなることを願っています。また、ミニ研究結果は本校全学生の前でポスター発表することを企画しており、保護者の皆様にも公開する方向で検討しております。本文をお読みの保護者の皆様におかれましては、授業参観だけでなくミニ研究発表をご覧いただきたく、切にお願いいたします。



機械工学科の近況報告

機械工学科長

小林 隆 志

今年、3年目の機械工学科長を務めさせていただきま
す。将来の日本の産業界の中核となって活躍する技術者
育成のために全力で努力してまいりますので、保護者の
皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたしま
す。

この3月には大地震、大津波、それに続く福島原発事
故という未曾有の災害に見舞われました。尊い命を失わ
れた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々
に心からお見舞い申し上げます。震災関連の報道におい
て「未曾有」、「想定外」といった言葉が繰り返しまし
ました。自然現象には未だに人知の及ばないことがある
ことを思い知らされました。科学技術は人類にとってな
くってはならないものですが、決して科学技術を過信して
はならないこと、科学者・技術者は自然に対して常に謙
虚でなくてはならないことを改めて認識させられました。

この4月、東京電力に機械工学科卒業生が入社しまし
た。その卒業生は福島原発への配属が決まっております。入
寮を待つばかりの時期に今回の震災・原発事故が発生し
ました。彼は不安な気持ちもあり学校にも相談に来てい
ましたが、予定通り採用を行うとの東京電力からの連絡
を受け入社しました。彼の困難にも負けない強い意志と
勇気を称えたいと思います。先日、東京電力の方がお見
えになり、横浜の火力発電所に配属になり研修を受けて
いるとのことでした。必ずや将来東京電力を支える大事
な一員として活躍するものと確信しています。東京電力
は困難な状況に直面していますが、彼を含め多くの卒業
生が頑張っています。われわれに出来ることは多くはあ
りませんが、節電を通して被災された皆さんの痛みを分
かち合うとともに東京電力を応援したいと思います。一
日も早い事故の収束と復旧をお祈りいたします。

機械工学科の近況をご報告いたします。3月には機械
工学科卒業生44名（就職29名、進学15名）、専攻科修了生

3名（就職3名）が巣立っていきました。これからの時
代はエネルギー問題、環境問題など多くの問題を抱えて
いますが、彼らが幅広い産業分野で活躍してくれるもの
と思っています。

4月には本科入学生41名、留学生（マレーシア）1名、
専攻科入学生5名を迎えました。例年御殿場の国立中央
青少年交流の家で宿泊して行われる新入生オリエンテー
ションは、震災の影響から学校での研修となりました。
私からは各自の夢の実現に向かって努力を続けてほしい
とのメッセージを送りました。その際、「21世紀の機械工
学と将来の自分の夢」について書いてもらいました。1
年生とはいえ、再生可能エネルギーの重要性を述べるな
ど、環境問題に高い意識を持っている学生が多いまし
た。彼らの今後の大きな成長を期待しています。

今年度は次の担任（括弧内は副担任）が熱意をもって
学生の支援にあたっています。M1：澤井（松田）、M
2：平田（宮内）、M3：西田、M4：永禮、M5：三谷
の各教員です。留年・退学者が出ないように機械工学科
教員全員で支援していきます。ご心配の点がありましたら
遠慮なくご相談下さい。

今年度の5年生35名（内1名は海外留学中）の進路状
況は、就職希望21名、進学希望13名です。就職希望者21
名のうち、現時点（5月23日）で内々定（実質的な内定）
を受けている者は11名です。専攻科生8名については就
職希望者6名、大学院進学希望者2名です。就職希望者
のうち内定者は現時点で4名という状況です。求人はい
ただいている会社数は昨年よりやや多い約350社であり、
企業の方との面談の中で高専生に対する企業の期待の大き
さをひしひしと感じています。最終的には例年通り就
職希望者全員が内定を得られるものと思っています。学
生の皆さんには、企業からの大きな期待に応えられるよ
うに、在学中には勉強のみならずクラブ活動など幅広い
分野で多くの経験を積んで人間的にも成長することを期
待しています。

最後に、今回の震災では東北地方の多くの学校が被災
し、勉学に支障の出る事態となりました。学生の皆さん
は今一度学べることの有り難さをかみしめ、将来の各自
の夢の実現のために日々努力を重ねていただきたいと思います。



平成23年度の 電気電子工学科

電気電子工学科長

望月 孔 二

前年度に引き続いて学科長を務めさせていただいて
いる望月から、今年度の電気電子工学科についてお話しさ
せて頂きます。

この3月には、本学科から31名が卒業していきました。
それぞれの道で大きく羽ばたくことを願っています。ま
た、この4月には1年生41名と留学生2名が本学科の学
生になりました。ここでの勉学が、皆様の人生を高める
ことを願っています。

教員交流制度により、本学科の大澤教員は平成23年度
末まで豊田高専で勤務します。一方、昨年度に本学科に
来ていた草間先生は、任期満了により香川高専に帰られ
ました。そのため今年度の常勤スタッフ数は定員より1
名少ない状態です。その代わり、今年度は静岡大学教授

の江間義則先生と、新居浜高専で定年を迎えられた佐藤眞一先生を客員教授として迎えることができました。

学科では電動バイクプロジェクトがいよいよ大きく育ち始めています。新入生から5年生・専攻科生を含む20名を超える有志の学生が、レース参加を目指して実践的な問題に取り組みながら、制御技術などの学習を深めるとともに、同プロジェクトの宣伝にも取り組んでいます。このプロジェクトは、嶋・高野・高矢教員によって支えられています。

さて、3月の高専だよりに続いて、就職の状況について記させていただきます。E5クラス37名の中で今のところ進学希望は19名、就職希望は18名です。この5月20日までに、本学科に求人のご挨拶に来られた企業は84社と、昨年度よりもわずかに増えており、産業界が本学科に期待していることが分かります。高専卒で就職した場合、大企業で研究員になるのは難しいですが、エンジニアとしての殆どの仕事は大学や大学院を卒業した学生と同じです。その際の大きな武器は、5年かけて育まれた基礎学力と、豊富な実験で育まれた実践力です。これは大学に編入学した時の学生生活にもあてはまります。なお、就職試験では面接も非常に重要です。

3月11日の大震災は、今年度の就職戦線に大きく影響し、当初第一志望とした企業の約3割が、「採用活動は6月から」または「採用無し」のどちらかになり、学生によっては志望企業を急遽見直さなければならなくなりま

した。そのような中で、今までのべ23名が20社の試験に挑み、14名の学生が内々定を頂いています。なお、この内定率は、昨年度の学校全体のものとほぼ同様の値です。

まだ年度の途中ですが、私なりに内々定を頂いた学生を分析しますと、自分の力に自信を持って面接に臨めたかどうか大きな分岐点だと思います。もしもそれが出来ているのに失敗したなら、単に縁の無かっただけのこと。引きずらないで、次の就職試験に臨んで下さい。

また、今自分に自信が持てていない方は、自分を見失わないで下さい。大学等と比べて高専の就職は非常に恵まれています。学校による学生の就職支援も、キャリアカウンセラーを整えるなど体制が整えられています。学生は、自己分析を更に深めて下さい。高専の5年生になったのは漫然と学校に通っただけではない筈です。

こうした就職や進学の状況は、是非下級生も知ってほしいと思います。そして、もし今の自分に改善すべき点があると感じたなら、是非とも自ら改善したり、担任や就職担当（望月）に相談して下さい。自分に自信をもつための王道は、成績を上げたり、クラブで勝ちぬいたりすることです。学生会や寮の役員を全うするのも素晴らしい。資格を取るなど、やすやすとは真似の出来ないことに対して自ら知恵を絞り汗をかくことです。夢中になって挑戦しているうちに能力が開発され、適性も明らかになって進路が決まるのが理想です。



平成23年度にあたって

電子制御工学科長
川上 誠

平成23年度の電子制御工学科長を務めさせていただくことになりました川上です。よろしくお願ひ申し上げます。

学科設立当初からご尽力いただきました澤先生が、この3月末で退職されました。数多くの業績を上げられたことにより、本校名誉教授に推挙されました。また、2年間特任教授として勤められました森井先生が定年となられ、新年度からは非常勤講師としていくつかの講義を持たれることになりました。2名の先生の後任として、新たに出川智啓講師と大沼巧助教を迎えました。

今年度は、新入生42名を迎え、本科生は合計214名でスタートしました。担任は1年生から順に松澤（教養科数学）、佐藤（教養科数学）、舟田、江上、そして5年生が長澤です。副担任として1年生は大沼、2年生は青木、3年生は出川が担任をサポートします。

毎年4月に御殿場の中央青少年交流の家で行われていた新入生オリエンテーションは、3月の震災の影響等も

あり学内で実施されました。そこでは本校の教育理念、教育目的と学科の紹介を行いました。クラス全体がまだ打ち解けず硬い雰囲気が漂っていましたが、2日目のドッジボールが終わる頃にはかなり明るい表情が見られるようになっていました。また、学業に対しても教員に積極的に質問をするなど、学校に馴染んできた様子が窺えます。

さて、平成23年度開始にあたり本学科の運営方針を昨年度と同様に以下のように決めました。

1. 留年・退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う
 - 学習意欲の向上のために、昨年度にも増して低学年のキャリア教育を充実する。
 - 科目ごとに最低限修得しなければならない事項を明確にする。
2. 学生確保対策
 - 中学生向けのわかりやすい学科紹介のホームページを作成する。
 - 出前授業等に積極的に取り組む。
 - 女子学生にとっても魅力のある学科とするために現状の分析、対策の立案と実施を行う。
3. 学科の将来計画とカリキュラムについての検討
 - 社会の要請に合った新テーマについて、カリキュラムの企画やスケジュールを立案するとともに、学科

の将来計画を検討し、卒業研究等で教材整備を行う。

4. 地域産業との連携

- 共同研究の推進、インターンシップや卒業研究での関わり方について検討する。
- 地域共同テクノセンターの事業に積極的に係わる。

5. 工作機器の安全対策

- 全学で共通に利用できる工作室の設置の可能性について模索する。また、本学科工作室の工作機器利用の安全対策をさらに推進する。

6. 学生のモラル向上

- マナー、他人への思いやり、相手を理解し尊重する気持ち等を育てる。

簡単に申しますと、学生の安全を第一に考えながら学業に専念できる環境を構築し、学生にとってもこれから入学を目指す中学生にとっても、また地域の企業にとっても、魅力ある学科にしていこうということです。

最後に、現在までの5年生の状況についてお知らせし

ます。本年度の5年生は44名、うち16名が就職を希望しています。本年度の求人数はほぼ300社で、5月20日現在で就職先から内々定をいただいている学生が8名です。また、進学希望者のうち本校専攻科を希望しているものが6名です。ここ数年、企業を取り巻く状況があまり良いとは言えず、厳しい就職活動になっているにもかかわらず、まだまだ甘い考えを持っている学生が見られます。進学に対しても、将来自分が何をしたいのか、どうしたいのか考えることなく、何となく大学に行きたいと思っている学生もいます。自分というものをしっかりと見つめ、自分の将来を真剣に考える学生になってほしいと思います。

今後とも、保護者、学生、教員の三者が協調して信頼関係を保ちつつ、学生諸君の将来を切り拓いていきたいと思っております。保護者の皆様方のご支援とご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



平成23年度を迎えて

制御情報工学科長
長谷 賢治

若葉青葉を渡る風もすがすがしい折柄、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。キャンパスは今、新入生を迎え、活気に満ち溢れ、生命のもつ「成長力」を最も感ずる時です。この紙面をお借りして平成23年度制御情報工学科の運営方針、組織編成、演習系教育等の紹介などを記してみたいと思います。

まずは学科の運営方針から。すでに沼津高専全体で年度計画、達成目標等は提示されておりますので、学科としてそれを達成する方向で行動します。それに加えて学科ではスタッフの行動原理を以下のように規定しました。すべての行動をこの原理に照らし合わせて決定することを求めています。

行動原理：次のことが可能となるよう行動すること。

- 学生一人ひとりが生き生きと学べる場の創生
 - スタッフ一人ひとりが生き生きと働ける場の創生
- とかく抽象的な原理は不毛であるとの見方がありますが、これだけの個性の強い教員集団です。そこから力をフルに引き出そうとするにはむしろこのような行動原理の方が最適だと考えます。

次に、スタッフに異動がありましたので報告します。技科大高専間人事交流制度を活用して、ブレイン・マシン・インターフェースの研究のため宮下准教授（数理神経科学）が豊橋技科大へ転出し、その代わりに、豊橋技科大から市川教授（計算機システム工学）をお迎えしております。市川教授はコンピュータの心臓部であるプロ

セッサ設計が専門ですので、組み込みシステム技術の教育への還元を期待したいと思います。次は、学級担任についてです。担任は学生の意識改革等に影響を与える重要なポストとなります。本学科では、第3年次から第5年次担任には、それぞれ、芹澤（電磁波工学）、鈴木康人（情報論理）そして吉野（ロボット工学）がその任にあたり、低学年の第1年次、第2年次学級担任の補佐には大久保進也（光情報工学）、松本（数値流体力学）がその任にあたります。また、就職指導には企業経験が豊かな相良（機械設計）が、その他大島（水圧・油圧工学）、藤尾（CAD/CAM）、市川（計算機工学）、鈴木茂樹（信号処理）と学科長の私、長谷（制御工学）の総勢11名のスタッフで学生の教育、指導に全力であたっていく所存ですのでよろしくお願いいたします。

次に、演習、PBL系を紹介します。3つのフェーズで「技術力」に加え「社会が要求する基礎力（定義は経済産業省を参照）」を鍛えます。まずは、第1年次から3年間で実施している2つの演習系についてです。(1)コンピュータを自在に操るための「プログラミング言語演習」と(2)機械を智能化するための「メカトロニクス教育」です。いずれの演習も20人クラスであり、ここで基礎的技術力を身につけます。次は、第4年次の「創造設計」。これは、8名でベンチャー企業を設立（40人クラスなので5社設立）します。あるミッションに基づいて商品企画を行い、それを設計、製作、そして製品発表するというものです。今年度のミッションは東日本大震災を受けて「独創的な災害対策機器を開発せよ！」としました。このフェーズで技術力はもちろんのこと、社会が要求する基礎力を鍛え上げます。毎年、優れた作品を全国プロコン（自由部門）へ出展しており、企業の方々にも評価いただいております（真の目的は企業と学科を繋ぐ仕組み作りです）。最後のフェーズは、第5年次の「卒業研究」で

す。これは、課題を発見し、それを解決し、その結果を発表するというものです。このように組み立てられた教育プログラムは、学生がその意味も分からずに取り組んだのでは効果が半減します。ぜひ、己の学んでいることの意味づけをしっかりとしてもらいたいと思います。

さて、次は進路についてです。100年に一度のと言われる経済危機に陥れたりリーマンショック。そこからやっと抜け出たと思った矢先の東日本大震災。今、まさに不況の連鎖が起り始めている中で厳しい就職戦線となりそうです。今年度の第5年次学生40名（内2名は休学）のうち就職希望が18名、進学希望が20名です。東日本大震災の関連で大手企業の採用活動が6月スタート。大学編入学試験も6月から本格化します。就職、進学ともにこれからです。ただ、厳しい就職戦線と言いましたがそれは「実力」がない学生について。「実力」がある学生は涼しい顔で内定を勝ち取ってきますので、日頃の鍛錬が重要ということでしょうか。



物質工学科 平成23年度にあたって

物質工学科長
芳野 恭士

昨年度まで校長補佐（専攻科長）を務めておりましたが、今年度より学科長に就きました。どうぞ宜しくお願いいたします。新年度が始まり、初々しい新入生が入学してから3ヵ月が過ぎようとしています。新1年生は、中学校と異なる授業時間や寮生活への戸惑いも少しずつ薄れてきたのではないかと思います。

今年度の物質工学科の学生現員は、1年生43名、2年生44名、3年生50名、4年生39名、5年生43名です。3年生が少し多めですが、編入生2名、さらにはインドネシアとマレーシアからの留学生2名が加わっています。4年生にもラオスからの留学生1名が在籍しています。一方教員に関しては、昨年度在外研究員で不在となりました古川教員がイギリスから戻り、この4月から学科の教員は元の11名になりました。古川教員が研修に行っていたイギリスのレスター大学は、学生が感じる満足度の高さではイギリスの中でも指折りの大学として知られています。古川教員は、最新の遺伝子工学技術とともに授業方法などについての研修も行ってきており、今後とも学科の教育に貢献してくれることと期待しています。

教育課程につきましては、ここ数年行ってきました変更が一段落し、学生が卒業までに身につけなくてはならない能力を教授するための最低限の科目として、必修科目を明示しました。これらの科目の単位は、卒業時には必ず取得している必要があります。学業不振学生が微増していることが心配ではありますが、保護者の皆様から

最後に、保護者の皆様向けの学科主導の開催イベントについてご案内いたします。11月中旬に「学科説明会2011」を開催いたします。イベントの内容は、(1)学科の教育プログラムの紹介（創造設計作品のデモも含む）と(2)今年度の就職、進学先、そして(3)スタッフとの談話会などです。お越し頂ければ幸いです。

以上、簡単ですが制御情報工学科の近況等をお伝えさせていただきました。スタッフ一同、全力で教育・研究に従事したいと思っておりますので、皆様方のご理解、ご協力の方、よろしくお願いいたします。

追記：3月11日の東北太平洋沖地震。まずは亡くなった方と被災者の方々に哀悼の意を表したいと思います。この日を境にわれわれの心の中の何かが変わりました。それは「豊かさ」の定義。3.11の意味するもの。それを深く考えること。それが死者への鎮魂だと思っております。

お子様を預かっている私達教員としては、演習問題等を頻繁に実施することによって習熟度を向上させるとともに、今まで以上に学生と接しながら注意深く指導を行っていくよう学科会議で方針を立てているところです。学科の応援する特別な教育プロジェクトとしては、これまで行われてきた「門池環境調査隊！」に加え、昨年度から開始された「宇宙大豆プロジェクト」を進める予定です。学科の研究面では、各教員が大変積極的に地域企業との産学連携開発研究に取り組んでいます。これらの共同研究には卒業研究生（5年生）や専攻科生も参画しており、就職や進学に対するよいオンザジョブトレーニングとなっています。

進路につきましては、昨年度は就職19名、進学22名全員の内定が確定しました。今年度は、就職、進学ともに5月現在において指導中であり、特に進学は6月以降に行われる専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて、5年生の担任の竹口教員と各研究室の指導教員が学生の準備を促しているところです。就職指導は今年度担当の押川教員により進められており、3月に起こった東日本大震災の影響が若干あるものの、ほぼ例年と同様に順調なスタートを切っているように思います。しかし、ここ数年採用のハードルは厳しい状況のまま継続しています。今年度も、残念ながら第一志望の企業の試験に落ちる学生が出ています。リーマンショックによる経済低迷をきっかけに始まった厳しい就職状況ではありますが、これを機に企業の採用方針が、単に採用予定数を確保するのではなく仕事に対する意欲と学力の両方を持つより優れた学生のみを厳選するようになってきているように感じます。そのため、今後経済状況が回復しても、多くの企業の採用レベルは以前のように戻らないことが予想されます。学生はこのような状況を認識し、(1)日頃の勉学に地道に勤しむ！(2)勉学で理解できないことは放置しな

いで担当の先生を尋ねて教えてもらう！(3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を形成する！(4)ネットだけで情報を得るのではなく、新聞や書籍をきっちり読む！(5)クラスの仲間同士で勉強を教え合う！といったことを実行し、学力の向上に努めるとともに将来の社会人としての自分の姿について普段から考えるようにして下さい。保護者の皆様へ、悩み多い年齢とは思いますが

お子様を励まししながら、時には厳しい態度で自立を促すようご指導をお願いしたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導していきます。学生、保護者、教員のトライアングル関係を円滑に働かせていきたいと思ひます。どうぞご支援のほど宜しくお願ひ申し上げます。



平成23年度の教養科

教養科長

西垣 誠 一

引き続き教養科長を務めております西垣です。よろしくお願ひします。

平成23年度は教養科に3人の新任教員を迎えました。寮を預かる寮監に県立高校の校長を務められた福木洋一先生、英語の教員として石川高専から鈴木久博先生、数学の教員として福島高専から鈴木正樹先生と経験豊かな先生方を迎えることができました。それぞれの先生の詳しいご紹介は、別のところで自己紹介がなされますことから割愛させていただきますが、これまでの経験をもとに沼津高専のために活躍していただけるものと期待しております。

さて、一昔前と異なり現在の社会ではいろいろなところで、自己点検・自己評価を行いあるいは外部評価を受けて組織をより良い方向に改善していくことが求められており、教育界すなわち我が沼津高専もその例外ではありません。どのような組織も自らを省みることなく、また他の意見をきくことなく、ただ漫然と同じことを繰り返していただくだけでは進歩発展がないばかりか組織が腐敗してくるというわけです。このことはもっともなことであり否定するものではありませんが、私は誤解を恐れず敢えて同じことを繰り返す大切さを主張したいと思ひます。すなわち評価を気にし過ぎ、毎年毎年何か新しいことを行わないと進歩していないような、あるいは努力していないような錯覚に自らが陥るべきではないということです。逆に言えば、新しいことをやること、同じことをやらないことで改善への努力を行っていると思解してはならないということです。教養科では主に低学年の教育を担っていますが、上辺の評価だけに惑わされることなく、しっかりと地に足をつけた教育を続けていきたいと思っております。

その一つを具体的に申し上げます。

昨年度も申し上げたことですが、教養科の教員の役割

として私が最も重要と考えていることに1・2年生の学級担任があります。子供から大人へと成長していく過程で知識の蓄積にのみ偏るのではなく、人間的にも大きく育ってほしいと願うところです。中学校まででも、学校生活を送ることでいろいろな社会性を身につけていますが、自分自身についてより深く考えるようになるこの年代では、その年代で初めて理解できるようになることも多くあります。それらは学校生活のあらゆる場面で学ぶ機会がありますが、我々としても「こういう人に育ってほしい。」という思いのもと指導しております。各学級担任は学科の特色も尊重しながら各学年で共通した考えのもと学生指導を行うべく毎年学年目標を定め、その目標を念頭に足並みを揃えて指導するよう努めています。この目標は長年学生達を育てていて、重点をおいて指導すべき事柄として浮かび上がってきているものです。その意味で、社会背景とともに変わってきたものもありますが、昨年度と全く異なる目標というわけではありません。今年度は次のような目標です。

第1学年

- 一、規則を守り、自律した生活を送る
- 一、授業を大切にし、計画的に学習する
- 一、他者と自分の違いを理解し、思いやりを持つ
- 一、公共物を大切にする

第2学年

- 一、マナーを守り、良識のある生活を送る
- 一、自ら学習する態度を身につける
- 一、個を尊重し、協調性を育む

この学年目標をクラス内に掲示し、1年間を通して指導していきます。

当たり前のことですが、人生すべて順風満帆ということはありません。沼津高専で過ごす5年間のうちにはいろいろな事があるでしょう。うまくいくこともあれば、壁に当たり落ち込むこともあります。それらの中には自分で乗り越えなければならぬこともあります。我々はその手助けを惜しむものではありません。保護者の皆様にも、ご心配なことあるいはご意見などございましたら、どうぞご遠慮なく担任までご相談下さい。

沼津高専に入学した学生諸君が多く知識を蓄えて、心身ともに立派に育ってくれることを願っております。

平成23年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成23年3月31日	渡辺敦雄	定年退職	教授（物質工学科）
	谷次雄	定年退職	教授（教養科）
	牧野博充	定年退職	講師（寮監：教養科）
	澤洋一郎	辞職	教授（電子制御工学科）
	宮下真信	辞職（高専・両技科大間教員交流により豊橋技術科学大学に採用）	准教授（制御情報工学科）
	森井宣治	再雇用期間満了	特任教授（電子制御工学科）
	奥野芳明	岐阜大学へ転出	事務部長
	布施典明	熊本大学へ転出	総務課長
平成23年4月1日	遠山和之	校長補佐（専攻科長）を併任	教授（電子制御工学科）
	押川達夫	校長補佐（学際教育担当）を併任	教授（物質工学科）
	草間裕介	香川高等専門学校に配置換	講師（電気電子工学科）
	市川周一	教授（制御情報工学科）に転入（高専・両技科大間交流）	豊橋技術科学大学
	鈴木久博	准教授（教養科）に採用	石川工業高等専門学校
	鈴木正樹	准教授（教養科）に採用	福島工業高等専門学校
	出川智啓	講師（電子制御工学科）に採用	電気通信大学
	大沼巧	助教（電子制御工学科）に採用	
	渡辺敦雄	特任教授（物質工学科）に再雇用	教授（物質工学科）
	上原正宜	事務部長に配置換	高知工業高等専門学校 事務部長
	五条寿久	総務課長に配置換	富山高等専門学校 管理課長
平成23年4月2日	福木洋一	講師（寮監：教養科）に採用	

平成23年度 校務分掌

平成23年4月1日 現在

校 長 柳下 福藏
副校長（教務主事） 教授 大島 茂
校長補佐（学生主事） 教授 蓮實 文彦
校長補佐（寮務主事） 教授 遠藤 良樹
校長補佐（専攻科長） 教授 遠山 和之
校長補佐（国際交流・FD担当） 教授 大久保清美
校長補佐（学際教育担当） 教授 押川 達夫
機械工学科長 教授 小林 隆志
電気電子工学科長 教授 望月 孔二
電子制御工学科長 教授 川上 誠
制御情報工学科長 教授 長谷 賢治
物質工学科長 教授 芳野 恭士
教養科長 教授 西垣 誠一
図書館長 教授 江間 敏
総合情報センター長 教授 牛丸 真司 (副) 講師 中道 義之
地域共同テクノセンター長 教授 藤尾三紀夫 (副) 教授 相良 誠 (副) 准教授 稲津 晃司
技術室長 教授 西田 友久 技術長 石和 嘉衛
学生生活支援室長 教授 小林 美学
実習工場長 教授 小林 隆志
事務部長 上原 正宜
総務課長 五条 寿久 課長補佐 露木 弘充 課長補佐 影島 義三
学生課長 山添 均 課長補佐 室伏 啓二

教務主事 教授 大島 茂
教務副主事 〈欠 員〉
教務主事補 教授 村松 久巳 教授 高野 明夫 教授 勝山 智男

学生主事 教授 蓮實 文彦
学生副主事 〈欠 員〉
学生主事補 准教授 井上 聡 准教授 鈴木 茂樹 准教授 鄭 萬溶 〈欠 員〉

寮務主事 教授 遠藤 良樹
寮務副主事 〈欠 員〉
寮務主事補 准教授 西村 賢治 講師 中道 義之 准教授 佐藤 崇徳

教科主任
国 語 准教授 大石加奈子
社 会 准教授 佐藤 崇徳
数 学 教授 待田 芳徳
物 理 教授 勝山 智男
化 学 教授 小林 美学
体 育 教授 佐藤 誠
英 語 教授 塩谷 三徳 代行准教授 鈴木 久博
ドイツ語 教授 大久保清美

学級担任		
機械工学科		
M	1年	澤井 洋 松田 伸也
	2年	平田陽一郎 宮内 太積
	3年	西田 友久
	4年	永禮 哲生
	5年	三谷祐一朗
電気電子工学科		
E	1年	代表 勝山 智男 西村 賢治
	2年	鈴木 久博 江間 敏
	3年	真鍋 保彦
	4年	代表 野毛 悟
	5年	代表 佐藤 憲史
電子制御工学科		
D	1年	松澤 寛 大沼 巧
	2年	佐藤 志保 青木 悠祐
	3年	舟田 敏雄 出川 智啓
	4年	江上 親宏
	5年	長澤 正氏
制御情報工学科		
S	1年	駒 佳明 大久保進也
	2年	大久保清美 松本 祐子
	3年	代表 芹澤 弘秀
	4年	鈴木 康人
	5年	吉野龍太郎
物質工学科		
C	1年	渡邊志保美 後藤 孝信
	2年	代表 佐藤 誠 藁科 知之
	3年	稲津 晃司
	4年	古川 一実
	5年	竹口 昌之

平成23年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名				
陸上競技部	渡邊志保美	牛丸 真司	相良 誠			
ソフトテニス部	佐藤 崇徳	平田陽一郎	山根 説子			
バレーボール部	大庭 勝久	長澤 正氏	大久保清美			
バスケットボール部	遠山 和之	永禮 哲生	松本 祐子			
野球部	高橋 儀男	手塚 重久	高矢 昌紀	渡辺 敦雄	鈴木 正樹	市川 周一
卓球部	稲津 晃司	高野 明夫				
柔道部	松澤 寛	西垣 誠一				
剣道部	澤井 洋	鈴木 久博				
サッカー部	中道 義之	駒 佳明	江上 親宏	望月 孔二	大久保進也	
ラグビー部	井上 聡	小林 隆志	鄭 萬溶			
体操部	佐藤 誠	江間 敏				
水泳部	小林 美学	新富 雅仁	西村 賢治			
合気道部	長谷 賢治	舟田 敏雄				
テニス部	竹口 昌之	古川 一実	後藤 孝信	西田 友久		
スキー部	嶋 直樹	川上 誠				
ハンドボール部	野毛 悟	松田 伸也				
弓道部	芳野 恭士	佐藤 憲史				
空手道部	芹澤 弘秀	宮内 太積				
バドミントン部	押川 達夫	藤尾三紀夫	大沼 巧			
トライアスロン部	三谷祐一郎	出川 智啓				
吹奏楽部	鈴木 茂樹	藁科 知之				
囲碁将棋部	待田 芳徳	勝山 智男				
ロボコン部	青木 悠祐	山中 仁				
学生会	鄭 萬溶	鈴木 茂樹				
文化サークル連合(科学技術)	鈴木 康人	村松 久巳	大川 政志			
文化サークル連合(文芸・文学)	真鍋 保彦	吉野龍太郎	大石加奈子			

文サ連(科学技術) 機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン

文サ連(文学・文芸) 茶道・合唱・軽音楽・ESS

平成23年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏名	担当	本職
杉山 賢一	内科医	杉山病院
堰澤 敦	歯科医	せきざわ歯科医院
山口 宜子	薬剤師	たんぼぼ薬局
宇治 友子	カウンセラー	オフィス友
房間 貞	カウンセラー	常葉学園

着任挨拶



沼津高専に赴任して

教養科
鈴木久博

4月1日付けで教養科に准教授として赴任しました鈴木久博と申します。3月までは18年間石川工業高等専門学校に勤務しておりました。

赴任して数週間は、同じ工業高等専門学校といってもこれほど違うのか、というほど日々新しい発見と驚きばかりであったことを記憶しております。他高専での勤務年数は長いかもしれませんが、本校におきましてはあくまでも新任であり、戸惑いの連続の中、先輩の先生方のご指導のおかげで何とかやっております。着任後数カ月を経た現在でも、相変わらずちょっとした違いに驚きつつ、しかしながら同時に新鮮さを感じながら日々を送っております。

学校としての細かな規則や取決め等が異なるだけでなく、学生の皆さんの様子にも違いが感じられます。例えば、課題等の提出物を出すとき、先生方に「お願いします」としっかり言える学生が本校の方が多くいます。また、日々の清掃を見ても、当番がより責任をもって仕事をしていると感じます。学寮でも上級生が下級生を責任を持って指導している様子はすばらしいと感じます。これらは、教育理念「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」に基づいて行われている本校での全人教育の成果であると確信しております。本校に赴任し、このような教育に携わることができることを嬉しく思っております。

また、概して本校の学生の方が積極的だと感じます。これはもしかすると、晴天が多い太平洋側と、雪や雨が多い北陸という風土の影響も多少はあるのかもしれない

ん。あまりこのような固定概念で捉えるべきではないのですが、石川県の人は、学生、大人を問わず、全般的にやや控えめだったように思います。

このように書いてきますと、あたかも私が石川県出身であるかのような印象を持たれるかもしれませんが、実は私は静岡県磐田市の出身です。高校卒業後、金沢大学に進学し、卒業後、静岡県に本社を置く会社に就職したものの、東京支社で働くことになり、静岡県には戻りませんでした。数年後に辞職し、再び金沢大学（大学院）に学び、修了後は石川高専にずっと勤務しました。静岡県を離れて27年がたち、このたびようやく戻ってまいりました。生まれ育った静岡の地に恩返しをできるよう、本校での職務にあたる所存であります。

研究について少し述べますと、私の専門はユダヤ系アメリカ文学で、とくにバーナード・マラマッドという作家の研究をしています。ユダヤ人と言いますと、日本人とは共通点がないように思われるかもしれませんが、ユダヤ教を知らなくては理解できないと思われるかもしれませんが、実は必ずしもそうではありません。この作家は、さまざまな苦難や苦境の中でもいかに人として正しく生きるべきかというテーマを直截に扱っています。その意味では、利己主義が横行する現代の世の中に生きる私たちに、どのように生きるべきかを教えてくれているとも言えます。いつか学生諸君にも作品を読んでみてもらいたいと思います。

授業は英語を担当しています。英語教育に携わってすでに20年ほどにもなりますが、いまだにより効果的な教授法を模索しています。新しい学校で、新しい学生相手ですので、特に試行錯誤です。そのような中でも、例えば英文法では、なぜそうなるのかという考え方を教授するように努めています。その考え方を覚えておけば、一つひとつ丸暗記する必要がなくなるからです。

様々な面でまだまだ不慣れな中ではありますが、今後どうぞよろしく願いいたします。



自己紹介と抱負

教養科
鈴木正樹

本年4月1日付けで教養科に准教授として着任しました鈴木正樹です。本校の電気工学科（現：電気電子工学科）の第31期生（平成8年度卒業生）で、14年ぶりに沼津に戻ってきました。本校を卒業した後は神戸大学の数学科に編入、そのまま神戸大学大学院自然科学研究科数

学専攻へと進学し、学位を取得しました。大学院修了後は東京大学大学院数理科学研究科の研究員を経て、この3月まで福島工業高等専門学校に勤務していました。同じ工業高等専門学校にいましたので、戸惑っているということは今のところありませんが、学校の雰囲気や学生の気質など、私にはやはり沼津の水がっているなと感じているところです。

数学科に編入したこと、数学者を目指したこと、電気工学の専門教員ではなく一般教養の数学教員として戻ってきたことは、高専時代に2人の先生の影響を受けたからです。それは、現寮務主事である遠藤良樹先生と現教養科長である西垣誠一先生です。この2人の数学に対す

る思いを知り、熱意のある授業を受けたことが、いま技術者ではなく数学者をやっているきっかけです。遠藤先生には通常の授業の他に毎週土曜日にゼミ形式の補講をやっていただきました。休みである土曜日を毎週学生のために使うことがどれだけのことなのか、教員という立場になって、そのありがたみをより実感しています。西垣先生にも授業の他に編入の際に数学の専門書を図書館に入れてもらうなどでもお世話になりました。この2人に受けた恩を次の世代に返していきたいと思っています。

数学には様々な分野があります。私の専門は複素領域における非線形の微分方程式論です。問題が古典的であることに魅力を感じ、特にソリトン方程式やパンルヴェ方程式などの完全積分可能系（可積分系）と呼ばれる対象に興味を持っています。100年ほど前にポアンカレによって評された「絶海の孤島」パンルヴェ方程式。その解であるパンルヴェ関数が、既知の特殊関数のように色々なところで実際に有効に用いられることを夢んでいます。現在直接対象としているのはガルニエ系です。これは多時間多ハミルトニアンのハミルトン系で表される非線形の可積分系であり、パンルヴェ方程式の多変数版にあた

ります。パンルヴェ方程式自身の持つ構造の研究はかなり進んできていますが、このガルニエ系の研究は未だ発展途上であり、これからどれくらい切り込めるか日々探索しています。

新しい数学的な何かを発見し、それについて調べる、という数学は別に新しいことではありませんが、発見された何かは新しいものであるし、そこに至る方法はこれまで誰も知らないような新しいものであることは当然です。何が言いたいかというと、数学にはこれだけ勉強していれば十分ということではなく、絶対にこれというような固定した手法もないということです。学生の皆さんには、広い興味と関心を持って勉強して欲しいと思っています。授業で習っていないからやらなくていいと考えるのではなく、独学で学ぼうということを考えて欲しいです。このとき必要なのは、目的に応じて何でも学び吸収する柔軟性ではないでしょうか。「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」この教育理念のもと教育や研究だけでなく学生指導に関しても精一杯努力したいと思います。これからどうぞよろしく願いいたします。



学生寮の2ヶ月が過ぎて

教養科（寮監）

福 木 洋 一

本年4月より、沼津高専の学生寮寮監として寮生の生活面のサポートをさせていただくことになりました福木洋一です。この3月まで静岡県内の公立高等学校の社会科（日本史）教員として38年間、主に静岡県東部地区の高等学校に勤務してまいりました。

高専着任以来わずか2か月ですが、同じ10代後半の若者なのに、私が今まで接してきた高等学校の生徒と沼津高専の学生（寮生）との間の3つの違いに感銘を受けています。

1つめは5月の寮祭の時に見られた、ひとつのことをやり遂げようとする時の「集団としてのエネルギーの大きさ」の違いです。高等学校でも年1回学校祭があり全校で取り組みますが、残念ながら集団としてのエネルギーは年々下降気味でその傾向が止まりません。しかし沼津高専寮祭最後の「練り」の熱気は「集団で行動する楽しさ」を知っている高専生だからこそ生み出されるものであり「寮という集団が持つエネルギー」は素晴らしいと思いました。

2つめは（東日本大震災直後に大量に流されたテレビCMではないのですが）「思いやり」と「心づかい」が寮生活のいろいろな場面で見られるということです。一例を挙げますと4月の宿直の巡回時、私はある棟の連絡用

ホワイトボードに書かれていた言葉の前で釘付けになりました。そこには「1年生の前では携帯電話の使用を控えよう」と書かれていました。寮の規則で1年生は4月中は携帯電話を持つことができません。そんな1年生たちに対する上級生たちの「思いやり」と「心づかい」がこの短い言葉から十分に伝わって来ました。この他にも寮生同士の「思いやり」や「心づかい」が感じられる場面をいくつも目にすることがあります。「ジコチュー」「KY」という言葉が何の違和感もなく使われる現代の若者だからこそ、沼津高専学生寮の持つこの雰囲気大切にしていきたいと思います。

3つめはやはり同じ年代でありながら、「高専では学生、高等学校では生徒という立場の違い」です。高専では「学生」だから故に、求められるものは一般社会人とほとんど同じレベルのように感じられます。そうした中で高専入学後2ヶ月目の1年生によって記入された「点呼用紙」や「寮日誌」、そして個々の学生から提出される「届」や「願」の立派さは、とても彼らが2ヶ月前まで中学生だったとは思えません。もちろんその背後には階長をはじめとする上級生たちの親身の指導がありますが、1年生の「学生であること」の自覚の表れだと思っています。また寮生会から提出されてくるいろいろな行事の企画書は、形式も内容も、一般社会で十分通用する立派なものです。私が今まで勤めていた高等学校でも生徒を大人として扱い、大人であることを要求してきましたが、沼津高専のそれは高等学校の比ではありません。私はこの要求に充分応えられるよう成長している沼津高専生の姿に、大きな可能性を感じています。

しかし私は沼津高専学生寮についての理解はまだまだ

不十分です。今後は教職員の皆様の御支援を受けながら、自分のこれまでの教職生活の経験が560人を超す寮生の学

生生活の充実のために少しでも生かすことができるよう、努力していきたいと思います。



自分の強みを見つける

電子制御工学科
出川 智 啓

この度、新たに電子制御工学科の講師として着任いたしました出川智啓と申します。大学院修了後から昨年度までの3年間は電気通信大学で助教として働いておりましたが、自分を育ててくれた高専教育に携わりたいと考えていたところ、ご縁があって沼津高専へ転出することになりました。

私の専門は流体力学、特に液体中に小さな気泡が混入した気泡流の数値計算です。気泡流の何が面白いのかといえば、気泡の存在が流れを“劇的に”変化させ、さらに気泡同士が複雑に干渉するところでしょう。また、非常に小さい気泡ですら、その体積の何倍もの液体を駆動することができます。そのような気泡を活用し、流れそのものを制御する方法を確立したいと考えています。大学院在学中は、研究に行き詰まるたびにビール内を上昇する気泡を眺め、気泡間に作用する力や気泡が誘起する液体運動に思いを馳せていました。最近では、寝食よりも数値計算が好きということが高じて、いかに速く・効率的に計算できるかを研究する高性能数値計算にも手を広げています。しかし、単純に好きだからという理由で研究が成り立つわけではなく、これまで研究として全く縁の無かった高性能数値計算の分野に飛び込んだのは、学術の世界で生き残るために武器となる“自分の強み”とは何であろうかと考えた末の選択でした。

私は奈良高専電子制御工学科を卒業した後に同専攻科機械制御工学専攻へ進学し、そこから流体力学の研究に取り組み始めました。名古屋大学大学院情報科学研究科への進学を経て電気通信大学の助教として着任しましたが、“人材の流動化”を促すため、5年間の任期付きでの雇用でした。5年間で何ができるか、他の研究者に負け

ない成果を出すにはどのようにすればよいかを考える日々が続きました。研究分野の盛衰は農業に喩えられることがあります。開拓者が未開の地に乗り込み、土地を耕し、種を蒔く。跡を継ぐ者達が種から出た芽を枯らさないように育てるのですが、美味しそうな実がなると、どこからともなく大量の人が押し寄せ、実を根こそぎ収穫していくのです。この頃が研究分野としての最盛期になるのですが、収穫だけして次の種を蒔かないと研究分野は衰退するだけで持続的に発展しません。数年という短い間に美味しく育ちそうで、他人があまり気付いていない、なおかつ次の種を蒔けるような分野は一体どこにあるのだろうかと探しぬいた結果、私にとっては高性能数値計算がそれだということに気付きました。

芽を育てるといというのは研究に限った話ではなく、むしろ教育でこそ重要な意味があります。私自身の教育方針は「技術を習得させた上で理論を教え、それを知識として高める」ことです。この教育方針は、学者を育てることを目的として知識に重きを置く大学よりも、高専にこそ合致すると考えています。技術を身につけることによって学生の自信を育み、技術がどのように科学と関係しているかを学んだ「高度な専門知識を持った技術者」の育成に取り組んでまいります。学生時代の私は素直な芽ではなく、随分とひねくれていたと思います。これまでに恩師と呼べる先生方に出会い、自主性と自信を肥料としてここまで育てて頂きました。沼津高専での教育に力を尽くし、次の世代を担う人材を育てることでそのご恩に報いたいと考えています。右も左も判らない未熟者ですが…とは申しません。一日も早く沼津高専の一員となれるよう努力して参りますので、保護者の皆様方、教職員の皆様方におかれましては、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

学生諸君、決まったお金で好きなだけ勉強できる環境は非常に恵まれています。社会人になると勉強するのに何かとお金がかかります。沼津高専の人的・物的資産を活用し、高専生活の中でよく学び、“自分の強み”を見つけて下さい。



母校での再会

電子制御工学科
大沼 巧

本年4月1日付けで電子制御工学科に助教として着任いたしました。私は14年前の沼津高専卒業生で、大学編入、大学院進学を経て、電機メーカーに勤めました。そ

れから、大学へ戻りこの3月で博士号を取得した後、母校である沼津高専へ戻ってきました。母校へ戻ってきて、驚いたことが3つありました。

1つ目は、14年経っても私のことを覚えていてくださった先生がいたことです。

2つ目に、先生方が現役の学科の全学生の名前だけでなく、一人一人の個性までも全て把握していることに驚きました。自分が学生だった当時はそこまで考えてもらっていたことに気づいていませんでした。教員という立場に変わり、今ではその想いもわかるような気がします。

考えてみればほとんどが5年間同じクラス、専攻科まで入れれば7年の付き合い、しかも、10代から20代への大きな変化を迎える時期でもあります。また、寮生活という特別な環境の中に身を置くということもとても貴重な体験です。現在、私は学科の担当授業だけでなく、1年生の副担任と寮務委員、クラブ顧問等も担当しています。今の1年生があと5年も経つと卒業していくのかと想像すると、まるで生まれたばかりの娘が嫁いでいくときのことを心配する親のような気分です。

3つ目に驚いたのは、自分の沼津高専生時代の仲間達が、母校に集まってきていたことです。一人目として、沼津高専で同じ学科の同級生だった鈴木先生が、偶然にもちょうど同じタイミングで、数学の教員として戻ってきました。二人目として、沼津高専時代のテニス部の先輩だった中道先生も、教員として数年前に戻ってきました。これは、とても心強いことです。

このような経験から、学生の皆さんに伝えたいと思うことは、今の仲間や先生との出会いや共有した時間を大切にしてほしいということです。かくいう恩知らずな私

は、沼津高専を卒業してからというもの、県外に出て行ったとき当時の仲間や先生には、これまで全くと言っていいほど会っておらず、その時々を生きてきたので、今まさにタイムカプセルを掘り返した状態です。だからこそ今になって、人につながることのありがたみを感じる人が多いのかもしれない。

私は、企業で6年半勤める間に、実務経験を通して色々な専門的な技術を身につけました。そこでは、会社の上司や先輩に色々教えてもらいました。時にはお客さんにも教えてもらったり、後輩にも刺激をもらったりしながら、技術力を高めることができました。学位取得に際しても、大学の先生や研究室の同僚達にもお世話になり、そこで培ったモータの制御技術が新たな研究に結びつき、それを持って母校に戻ってくることができました。

10代で将来の専門を見据えるのは、なかなか難しいことですが、その時々でそれと信じて一生懸命やってきたことが、振り返ってみると繋がって道になるということもあるのだと感じています。

これから、どうぞよろしく願いいたします。



寝覚ノ床

制御情報工学科

市川 周一

本年4月1日付けで制御情報工学科に教授として着任いたしました市川周一と申します。神奈川県出身で、大学院を修了後、新技術開発事業団・研究員（東京都）、電機会社のLSI設計者（兵庫県）、名古屋大学（愛知県）、豊橋技術科学大学（愛知県）と全国各地を移動して、沼津高専に赴任して参りました。

豊橋技科大では、毎年多くの高専卒業生を編入生として受け入れています。沼津高専からも過去5年で64人が豊橋技科大に編入していて、これは進学者全体の約18%に相当します（最大の進学先です）。平成22年度だけみれば、大学進学者73人のうち実に22名（3割！）が豊橋技科大へ進学しています。また沼津高専には、豊橋技科大OBの教員が相当数いらっしゃいます。

もともと浅からぬ縁をもつ沼津高専と豊橋技科大ですが、本年度は私が制御情報工学科に赴任しただけでなく、制御情報工学科の宮下真信先生が豊橋技科大へ赴任しています。国立高専機構と豊橋技科大／長岡技科大は教員交流協定を結んでいて、私と宮下先生が入り替わるように1年間赴任する形になりました。

前置きが長くなりましたが、ここで少し私の専門分野を紹介させていただきます。大学時代に計算機設計を専攻し、その後、電機会社でマイクロプロセッサの設計業務に従事していました。大学教員に転じてからは、特定応用向

けLSIの設計などを行っています。柔らかい言葉でまとめると、「計算機システムを高速化する方法」について研究してきたこととなります。浮世離れした分野に思われるかもしれませんが、実際にはとても身近な話です。私の学生時代（1980年代）、世界最速のスーパーコンピュータの性能は300Mflops程度でした（1秒に3億回の加減乗算）。ところが2011年現在、数万円のパソコンでさえその10倍の速度で演算することができます。こうした進歩を支えるのが高速化技術であり、その成果は携帯電話・家庭用ゲーム機・ハイビジョンテレビという形で蔭から家庭生活を支えているわけです。

思えばコンピュータの歴史は僅か60年ほどです。私のような若輩者（？）でも、その歴史の半分以上を経験してきたこととなります。このような急速な発展を体験できたことを幸せに思う一方、子供の時からPCやインターネットが身近にある若者を羨ましくも気の毒にも思います。

高専生は、卒業後、プロフェッショナルとして技術の進歩に貢献することが求められています。しかし現在の計算機システムは膨張し複雑化していて、深く理解することが極めて困難になってしまいました。自分が学生に戻ったとして、昔のような取り組み方で本当に身につけることができるのか不安に思う程です。沼津での1年間、高専生と向き合いながら、21世紀の計算機教育について改めて考えてみようと思います。

沼津・三島近郊は風光明媚で、美味しい食べ物やお酒に恵まれているようです。私は各地の地ビール飲み歩きを趣味にしておりますので、正直、そちらの方も楽しみにしております。皆様の御力もお借りして、これからの1年間を楽しく生産的に過ごせたらと思っています。宜しく願いいたします。



着任の御挨拶

事務部長

上原正宜

平成23年4月1日付けで事務部長に着任いたしました上原正宜です。その前は高知高専で3年間、高専というものを経験させていただきました。それまでは主に大学の現場を回っていたので高専というものがとても新鮮に感じられたことをつい先日のように記憶しております。また高専に勤務する以前にも偶然ある高専を訪れる機会があり、その時学生達が部外者の我々にとても気持ちのよい挨拶をしてくれたことが私のなかでとても爽やかな記憶として残り、これが私にとっての、ひどく限定的ではありますが高専生のイメージとして定着したように思います。そして一人ひとりの学生が夢と希望を抱いて入学し、5年間、専攻科を含めれば7年間という厳しい教育課程とお互いに研鑽し合う環境のなかで実践的かつ創造性豊かな技術者に成長していく姿に触れ、3年間の高専勤務ですっかり高専ファンになってしまった私にとって、引き続きここ沼津高専に勤務する機会を得たことは大変嬉しい限りです。また環境的にも高知高専では空港を発着する飛行機の声（高知龍馬空港に隣接して学校が

ありました）とともに過ぎしましたが、ここ沼津高専では日本を代表する霊峰富士を間近に仰ぎながらの勤務。なんとも贅沢な気がいたしています。

高専はいまでこそ高専機構という組織に独立行政法人として一元化され、いわゆるスケールメリットを生かした運営により法人化後の厳しい波を乗り越えていこうとされていますが、もともとは歴史も地域性も違う多くの高専から成る独立行政法人です。機構の一員であるという自覚とともに、各高専が特色を出し、地元関係機関等との連携により地域ニーズにマッチしつつグローバル市場で活躍できる優秀な人材を輩出していくなかで他高専と競って成長していくことが求められています。高度化再編、志願者の確保、国際化への対応等多くの課題が目の前にはありますが、沼津高専が地域に根差しつつ更に大きく発展を遂げていくために少しでも寄与できればと思います。

ところで、私の実家のトイレに一つの言葉がいつの頃からか掛かっています。たぶん娘が置いたのだらうと思いますがこんな言葉です。「やれなかった やらなかった どっちかな？」相田みつをという人の言葉です。この言葉をトイレで見るたびになんだか自分自身へ語りかけられているような妙な気分になるのです。学生のみなさん、新鮮な感動と夢を持ち続けてください。私もみなさん一人ひとりが夢を実現するお手伝いを事務部の一員として側面からさせていただければと思っています。



富山から沼津へ

総務課長

五条寿久

本年4月1日付けで事務部総務課長として着任しました五条です。前任地は富山高等専門学校で管理課長として業務を行ってきました。同じ国立高等専門学校の高専といいますが、それぞれの高専に歴史があり独自の考え等がありますので、まだ手探りの状態で業務を行っています。またこれまでは主として会計関係の業務を行ってきましたが、本校では会計関係だけではなく庶務、人事、外部資金などの業務を行うこととなりますので、色々勉強させて頂き、業務を行ってまいりたいと思っています。

この場をお借りしまして、前任地である富山高専について少し話をさせていただきますと、私が在任していた当時は、国立高等専門学校再編の動きに併せ、富山県に2校あった富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校を再編統合し、新たな富山高等専門学校として出発をするという、なかなか経験のできない業務を行ってきました。先程も述べましたように、富山における両高専についてもそれぞれの歴史がありました。特に富山商船高専にあっ

ては全国で5校しかない国立商船高専のうちの1校です。それが工業高専と再編統合するという未だかつてない事を行ったわけですから、両校の教員の方々には大変なご苦勞をおかけしたと思います。統合にかかる委員会についても約2年の間に延べ50回近く開催し、新しい教育課程や学則の制定、学生指導方法の統一、学校の校章の作成、更には新校歌、制服の制定など、細かなところまで一つ一つ丁寧に議論を重ね、機構本部との連絡調整などを行いながら、平成21年10月に富山高等専門学校として出発しました。本年4月には新高専になって2回目の新入生を受け入れることになり、今後更に3年間をかけて新高専としての学生を受け入れることにより、新体制が整うこととなりますので、同じ国立高等専門学校の一員として更なる発展を沼津の地から見守っていこうと思っています。

静岡県人の私にとって富山での経験は、いろいろな意味で良い経験をさせて頂いた時間だと思っています。太平洋側に住む人間にとっては、朝は太陽が海から昇り夕方に山に沈むという事は当たり前だと思っていましたが、日本海側では山から登り、海に沈むということを改めて知らされました。考えてみれば当たり前のことですが、また、富山（新湊）の名物に「白エビ」があります。由比の「桜エビ」と比べると少々大ぶりですが、紅白のエビで大変縁起が良いとのことで、毎年由比漁港から関係者が新湊

漁港に向いてイベントを行っていました。お互いの地域でメリットになる事は今後も続けていって欲しいと思います。

今回縁あって沼津高専で仕事をさせて頂く事になりましたので、来年本校が迎える創立50周年に向けて、これ

までの諸先輩方が代々築いてきてくださった歴史や伝統を基に、更なる沼津高専の発展に向けて微力ではありますが尽力していきますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

新入生から (入学にあたり)

沼津高専寮～僕の初体験レポート～

電子制御工学科1年 五十樓 拓 倫

この春、若干15歳にして初めて親元を離れての寮生活が始まった。最初は知らない相方や先輩、周りの部屋の人々、クラスメイトの中に飛び込み、戸惑ってばかりだった。しかし、緊張しながらも自分から声をかけることで相手のことが少しずつ分かり、次第に楽しく話せる仲になってきた。入寮から1ヶ月以上が経った今でも、寮のルールをうっかり破ってしまい先輩達から注意を受けることがある。そんな体験から、自分がいかにこれまで、家族に甘えて好き勝手に生活してきたか、ということを楽しめると思うほど思い知らされている。

ある先輩が「寮生活は毎日が修学旅行だよ。こんな大勢の同年代の人たちが毎日寄り添って生活して、時にはみんなで馬鹿な企画やって、盛り上がったりする青春は普通の高校生には絶対味わえないことだよ」と話してくれた。僕が地元の普通高校に進んでいたら、家では好きな時にゲームをしテレビを観て、やりたい放題だったに違いない。寮生活では、持込物品の制限や点呼、風呂・食事の時間が決められており、自分の勝手にはならない。そんな寮生活は、不便であり、辛いのも確かだ。しかし、僕は先輩の言葉から、辛いことがある代わりに楽しい事もたくさんある、ということを教えられた。自分の価値観だけにとらわれず、他者の価値観を受け容れるトレーニングの日々となる、それが寮生活だ。中学生時代に学級活動や部活動でも協調性のトレーニングにはなったと思うが、あくまでも学校にいる時だけのものではなかった。

私の生きる「みち」

制御情報工学科1年 後藤 志侑子

みなさんは大切にしているものがありますか？私は、自分の生き方と人との出会いを大切にしています。

私は人生とは「みち」だと考えています。その中には簡単な「みち」もあれば、辛く険しい「みち」もあります。人は日々「みち」を選んだり、迷ったり、立ち止まっ

寮生活では日常生活の大半を寮生の仲間と共に過ごすわけで、文字通り『裸のつき合い』だ。将来、社会人となった時に高専寮での学びは、自分の大きな強味になると感じている。短時間で水圧の低いシャワーで身体の清潔を保つ工夫、洗濯・掃除などの家事労働を効率良くこなす工夫などを身につけ、生活力を養いたい。自転車さえあれば、どこにでも行けてしまう、という高専寮生ならではのバイタリティを手に入れたい。そして僕も数年先、後輩にこの先輩からもらった言葉をそっくりそのまま伝えられる人間になりたい。

入寮して間もない頃から強く印象を受けたのは、自分を含めた1年生だけが、妙に浮いている感じだ。2年生以上の先輩は、3年生でも4年生でも先輩という雰囲気だと感じた。僕はまだまだ修業が足りず、先輩達に注意を受けしよげ返る日々が続くのだろう。しかし、しよげ返って反省したらまた一つと学びを得て前進したいと考えている。今の頑張りが自信に変わることを信じて。僕の目に映った2年生以上の先輩達のようにになりたい。

それから学習面でも、まだまだ高専の授業のテンポや学習方法、テストについて掴めておらず不安が多い。先輩や先生に自発的に聞いて、徐々に掴んでいきたい。4月の入学式の校長先生の告辞の中で、全国の高専で、仙台・福島・茨城高専では震災後、いまだ閉鎖状態にあり新入学者の受け入れもできない状態であることを聴いて僕は身体が震えた。震災で被災した人々のことを思えば、自分の希望通りの進路に進めたことをありがたく思い、積極的な学習姿勢をもち続けたい。分からない時、困った時に同じ屋根の下にすぐに相談できる相手がいる寮生活は、自分のこれからの学習スタイルを確立する上でも大いに助けになるだろうと思っている。

たりしています。「みち」の途中で止まることはあっても逆戻りすることはなく、「みち」に正解やゴールはありません。

人は「頑張ろう」と思っている、つい楽な方を選び、その方向に流れていってしまいがちな生き物です。日々歩んでいる“人生”という「みち」の中でも簡単な「みち」を選んでしまう。しかしながら、人という生き物がそのような性質を持っているからといって、簡単で楽な方向に流れていってしまうのは良くありませんし、人の特性だからといって開き直るのはもっと良くありません。

では、どのようにしたら楽な方向に流されてしまわないのでしょうか。その為には、自分自身が周りに決して流されない強い意志を持つことしかない、と私は思います。

私は今まで楽な方向に流されるままに生きてきました。だから、一生懸命になったり、努力したという経験は他の人に比べてとても少ないと思います。中学生のうちはそのような私でも支障なくやっていくことが出来ました。これからもこのままでいても駄目なわけではありません。しかし、そのままでもいいと決して言い切れません。なぜなら、努力しない人は人の役に立つことはできず、世の為になるなどなおさら無理だと思うからです。私は今、高専という新しい環境に来て、新しい生活をする事になりました。このような時こそ、自分が変わることでできる最大のチャンスだと思います。だから、私は今年1年の目標の1つとして、周りの人間に流されずに強い意志を持って険しい道であっても1つ1つ乗り越えていく、ということ掲げます。しかし、険しい道ばかりを選んでいても、挫折しか味わえません。程よく険しい道を選び、目の前の困難から絶対に逃げずに立ち向かっていこうと思います。

「出会いを大切に」「一期一会」とよく人は言います。なぜそのように言われるのでしょうか。それは“人”という生き物は互いに刺激しあい、影響を与え合うものだからだと思います。では、あなたには今までに自分の考えや概念を変えてしまったり、「この人のようになりたい」



といった大きな影響を受けたり、というような出会いをしたことがありますか。私はそのような出会いをしたことがあります。それは中学3年の時の数学科を担当してくださった先生です。私はその先生に数学を習うまで、数学という教科を楽しんだことがありませんでした。ただ単に答えを出すだけの教科なんて面白くない、とさえ思っていました。しかし、その先生に出会って、数学という教科の見方が大きく変わりました。また、数学という教科にとどまらず、その先生の生き方、その精神、情熱に感動しました。いわば、その先生からとても大きな刺激を受けたわけです。しかし、当時の私は「今から変わるのなんて無理」、「今変わったりしたら周りからどう思われるか分からないから嫌だ」、と変わる気が起きず、そのまま“憧れ”で終わっていました。

ですが、今は先ほども言ったとおり変わるチャンスです。だから、私は先生のように毎日一生懸命に、そして熱くなる時に熱くなれ、人から信頼されるような人になろうと思います。また、先生のような、人のために尽力できる人を目指していきたいと思っています。

私はこれからも自分の生き方や人との出会いを今まで以上に大切にしていきたいと思っています。そして、ここに掲げた2つの目標を達成するために1日1日少しずつでもいいので一生懸命努力して成長していきたいと思っています。



卒業生から

高専の卒業生として… たえずチャレンジする心

電気工学科（現：電気電子工学科）12期

河合 庄 二

皆さんこんにちは！私は昭和53年に沼津高専をなんとか卒業、33年目を迎えた社会人です。私と違って優秀な学生だった同期の西田君、遠藤君は母校の立派な教授に。来年は沼津高専創立50周年になるとのこと。大

変おめでたいことかと思います。私の勤務している会社も来年4月に50周年を迎えます。大企業ではありませんが、いま思えばよく私も会社も継続できているな、と感心しているこのごろです。

3月11日に発生した東日本大震災により多くの方々被害に遭われ、いまま大変御苦労されておりますが、我々も被災地の一日も早い復旧復興に、わずかながらご協力させていただいております。弊社は昭和34年におきた伊勢湾台風のインフラ復旧サービス拠点として、昭和37年に愛知県に創立された会社であり、日立の子会社として

「社会インフラ整備」のための受変電設備、上下水道電気設備、金融端末などを製作している企業であり、現在はEV用充電設備などの開発も行っております。

さて私は今から38年前に沼津高専に入学しました。寮長が竹刀を片手にあらわれ、年齢の差におどろいたことを覚えています。1、2年は全寮制で確か栄峰寮？で毎日が規則正しい生活でした。7時起床22時消灯、毎日点呼があり1人でも遅れたら、全員が正座させられたこともありました。4人部屋でプライベートな空間などまったくありませんでしたが、結構うまくやっていたと思います。昼間は授業、夕方はクラブ活動（1年は西田君と同じ体操部でした。2年からはソフトテニス部で、現在も現役です。）授業では市川先生、谷先生、勝呂先生など、結構楽しい授業でした。（…試験は大変でしたが）4年からは、下宿で自炊生活。学校、クラブ、バイトなど非常に忙しい2年間でした。4年になると電気・電子は選択授業となっており、私は電気を選択。川井教授や他の先生方から、交流理論や送配電などを学びました。川井先生は、英語での授業だったため苦勞した覚えがあります。当時の教科書はいまでも我が家の本棚の片隅においてあります。電気を選択した私でしたが、卒研テーマは「6800によるマイコンの製作」。加藤先生、石和先生に指導いただいたのですが、いろいろと忙しかった？私はほとんど同期の実石君にまかせっきりで、ご迷惑をかけた申し訳ない思いがあります。残念ながらこの研究は、

ソフトウェア開発まで実施できませんでした。しかしその経験？からか私は昭和53年に入社してすぐに「Z80マイコンを使った空調制御システム」やシーケンサを使った「上下水監視制御システム」の開発に携わり、昭和57年からは、自律分散型制御用計算機による（なんと当時は8インチFDが記憶媒体）各種プラント監視制御システムを顧客ニーズにあわせて開発。現在は当時の考え方を継承した主力製品の一部として若手にひきつがれております。

出来の悪い学生だった私が、たえず会社の成長製品に携わってこれたのは、高専時代に“問題にチャレンジする姿勢”が自然に身についたからではないかと思っています。弊社にも毎年新入社員が入社します。高専卒はひいき目ですが積極的で、行動する新人が多いです。まずはやる。実行する。そして考える。という姿勢が感じられ将来に期待できます。

“たえずチャレンジする姿勢”を植え付けてくれる場、それが高専であったと思っており、私は高専の卒業生であることを誇りに思っております。

皆さん、ぜひ沼津高専での毎日を目指をたて、それに向けてチャレンジしてみてください。54歳になったいまも絶えずチャレンジを続けている卒業生からのメッセージです。

（私ごとですが、2011年3月に技術士（電気電子部門）試験に合格し、技術士登録しました。）



高専で得たもの

電子制御工学科20期
遠藤友和

私は平成22年3月に、沼津高専専攻科を修了しました。沼津高専には9年間もの長きにわたりお世話になりました。電子制御工学科に入学した私は、勉強不足から単位が取れず3年次、4年次と1年ずつ留年し7年かけて卒業。専攻科に進学し、さらに2年間勉強させていただきました。この間、高専に入学して失敗だったとか、卒業は諦めて別の道を探そうとか、色々と思いついて悩んで両親を困らせました。そんな私も2度目の留年以降は家族・先生方・友人達の支えもあってようやく考え方を改めることができ、専攻科修了という形で9年間を終えることができました。

現在私はNTTグループの技術部門で仕事をしており、今年で2年目になります。具体的な仕事内容は、NTTの提供するサービスをお客様が利用できるように開通する作業や、装置のメンテナンス、故障修理などです。お客様が24時間365日、いつでもサービスを利用できるためのバックボーンを任されているという使命感と責任感を強

く持って日々の業務に臨んでいます。東日本大震災の際は、通信インフラを確保するために大勢の社員が現地へ支援に向かい、現在も壊れた設備の復旧や無線衛星車を使つての電話器設置などを行っています。被災地のために何かできることはないか？と日本中の人々が考え、行動している中で、直接被災地へ支援に行けるということはとても恵まれた環境であり、この仕事に就けたことに誇りと喜びを感じています。

高専生活の中で現在の仕事に役立っていることを挙げるとすれば、まずはじめに、勉強へ取り組む姿勢が挙げられます。社会に出ても試験やレポートはありますし、勉強することはたくさんあります。自分で計画を立て、限られた時間を有効に使ってこれらをこなしていく上で、学生時代に必死に勉強に取り組んだ経験は大きな財産です。もしもあの時、留年という現実を前に高専卒業の道を諦めていたなら、きっと別の道でも壁にぶつかった際に諦めてしまっていたでしょう。道を逸れそうにならながらも最後までやりきった自信と、「もう同じ失敗はしない」という強い気持ち、今の私を支えているのは間違いありません。もちろん、周りからの励ましにも日々感謝しています。

知識・技術面でも、高専の授業や実験で学んだことは役立っています。電気を扱うことも多々ありますし、古い装置であればメタルケーブルのジャンパー作業、新し

い装置ではルータの立ち上げ、コンフィグ作成など、すべて基礎は高専で教わった内容ばかりです。

繰り返しになる部分もありますが、私なりに在校生の方々へのメッセージを送ります。まず、困難は絶対に諦めず、逃げ出さず、正面からぶつかって乗り切りましょう。最終的にやるかやらないかは自分次第ですが、人間とは心の弱いものでどうしても楽な方へと行きたがります。やらなきゃいけない、と心では分かっているにもかかわらず、それが蓄積され一人ではどうしようもない状況に陥ることもあります。そんな時は一人でどうにかしようとせず、周りにしっかり相談しましょう。心から気持ちをぶつければ、必ず相手は答えてくれます。一人では解決できなかった問題も、周りの助言を受け入

れることでいともあっさりクリアできてしまうこともあります。これを乗り切ったことが自信となり、次に同じ困難にぶつかったときは一人でも乗り切れるようになります。

もう1点、高専という環境を最大限に利用してください。学ぼうと思えばいくらでも学ぶことができる、すばらしい環境です。もし高専時代に学ぶ内容を全て理解できている人がいれば、企業では間違いなく即戦力です。在学中にはなかなか気付けないことですが、こんな勉強は意味がないとか、どうせ役立たないとか、そんなことは決してありません。目一杯に勉強して自分の将来の土俵を広げ胸を張って卒業し、自分の選んだ道で大いに活躍してください。期待しています！

留学生から



はじめまして

電気電子工学科3年
ホー・ウィー・リアム

はじめまして、私はホー・ウィー・リアムと申します。マレーシアから来ました。今、沼津高専で勉強しています。私は電気電子工学科3年に在籍しています。

マレーシアと日本を比べると、マレーシアの方が住みやすいと思います。マレーシアと言う国は物価も安いし、天災ありません。旅行したかったら、マレーシアへ行けば必ず良い思い出が出来ます。また、マレーシアは食べ物の天国と呼ばれ、美食家の二番目の家と言われています。しかし、マレーシアの技術はまだまだ発展していません。マレーシアには新幹線がなく、電車もいつも遅れています。日本の技術は世界でもトップクラスであり、これは誰からも知られている事実です。それで私は日本に勉強しに来ました。ですから、私は日本人の仕事のやり方や時間を守る態度を学びたいと思います。

東北地方に起こった大地震の影響で、私は日本に来る予定が遅れてしまいました。地震で、原子炉が壊れたニュースを聞いて、マレーシアでも放射能の影響を怖がっています。それは放射能が目に見えないもので、人の体に良くないものだからです。マレーシアのテレビ放送で日本の状況を知り、被災者には大いに同情を感じていますが、両親は私が日本に来ることを心配していました。

私は4月9日に、マス航空で日本に到着しました。私はこの日を一生忘れられないと思います。その日、私は祖母と両親の涙を見て、家族の愛が何よりも大切だと

うことが分かりました。別れというものには必ず人間の生活に存在して、誰でもこれは避けられないものだと思います。日本に行くことを決心しました。

成田空港に着いたとたんに帰国したい気持ちになってしまいましたが、空港から出て「頑張ろう日本」と書いてある広告を見て、私も日本人と一緒に頑張りたい気持ちが出てきました。日本頑張れ、僕も頑張れ！最も良い世界を作るために、一緒に頑張ろうと思いました。

沼津に来た時、学生課の室伏さんが三島駅まで迎えに来てくださって、本当に嬉しかったです。その日は、私と二人のマレーシア留学生が沼津高専に来ました。車の中で、私達は愉快地しゃべりながら、外の景色を見ました。高専に着くと、私達は学生課の会議室に行き、担任の先生に会いました。私の担任の先生は眞鍋先生で、顔を見ただけで、優しい先生だとわかりました。それから、室伏さんは私たちを色々なところに連れて行って、保険証、外国人登録証など色々な重要な文書を作る手伝いをしてくださいました。

授業が始まったばかりの頃は、先生が何をやっているのか全然分かりませんでした。しかし、私は勇気を持って、隣に座っている水口さんに色々な質問をしました。彼女は優しく、簡単な日本語で私に必要な事を教えてくれました。新しい友達ができ、本当に嬉しかったです。私は彼らに色々なことを話したいのですが、私の日本語はまだ下手で、言いたい事がなかなか伝えられません。これから、一所懸命日本語を勉強して、たくさんの友達をつくりたいと思います。

最後に、私にとって日本に留学できたことは私の人生の宝です。この機会に、最も良い将来に向かって、頑張りたいと思っています。よろしくお祈りします。



皆さんと 友達になりたいです

物質工学科3年
ラディステア・エカヤントリ・ズリキフリ

皆さんこんにちは。私は東南アジアのインドネシアから来た物質工学科3年のラディステアです。2010年4月2日に飛行機で5時間以上かけて日本にきました。道中は全く疲れることなく、日本に着いた時は本当に嬉しかったです。成田空港では忘れられないことが一つあります。私がスーツケースを受け取った時に、ふと目にした看板にSprite(スプライト)が1本270円と書いてありました。あれ?スプライトってそんなに高かったかな?と、私はとても驚きました。インドネシアなら270円で4、5本のSpriteが買えます。日本では考えられない値段です。皆さんには海外旅行にインドネシアをお勧めします。

入国後、私は成田空港から東京都新宿区大久保にある東京日本語教育センターへ行きました。このセンターは様々な国から来た留学生が勉強する場所です。私は、沼津高専に入学する前にセンターで一年間かけて日本語を中心に化学や数学を学習しました。私は、日本語の勉強の中で漢字が一番難しいと感じています。ある日本語のテストで、私は誰よりも先にテストを終わらせることができました!しかし、そのテストで0点をもらってしまいました。なぜなら、私は月と日の漢字を逆に書いていたからです。私は、センターで日本語を勉強するばかりでなく、日本の様々な文化に興味を持ち、実際に参加しました。例えば、茶道です。初めて日本のお茶を飲んだ時は、その味に驚きました。インドネシアのお茶に比べて全然甘くなかったからです。しかし、今では日本のお茶にも慣れてきたので、帰国したら逆にインドネシアのお茶が甘すぎると感じるかもしれません。他にも、生け

花や習字や南京玉簾などに参加したことがあります。どの経験も本当に楽しかったです。また、私は一年間日本で生活をするうちに、様々な素敵な生き方を日本人から学びました。例えば、自分でやれることは自分でやるということです。日本人の勤勉さも勉強になりました。

センターでの一年を終え、私は2011年3月25日に沼津高専に移動しました。私は、沼津高専は先生の教え方がすばらしく、学生の皆さんも勉強ができると先輩から聞いていました。私は、まだ日本語が上手に使用できないため、授業で日本語を聞き取れて内容をきちんと理解できるか、高専で友達ができるかなど様々な不安がありました。しかし、私は不安になることをできるかぎり考えないようにして、高専生活に励みました。その結果、現在は、沼津高専での生活が本当に楽しいと感じています。皆さんが優しく話してくれ、困ったときは色々と手助けをしてくれます。学生寮の時間をきちんと守るというルールや、他の人が迷惑にならないためのルールも理解できました。また、チューターの稲葉和恵さんが私の様々な面倒を見てくれ、本当に感謝しています。

授業では、先生方がいつも私のことを気にかけて下さり、私が授業の内容をきちんと聞き取れたかを授業後に確認して下さいます。そして何よりも、担任の稲津先生が親身になって常に私を応援して下さい、大変感謝しています。みなさんが優しく励ましてくれ、私は以前よりももっと頑張ろう、という前向きな気持ちになれます。

色々とお書きましたが、私が沼津高専の生活の中で一番嬉しいことは、クラスの皆さんが優しく話しかけてくれることです。しかし、私は日本語をまだ使いこなせていないので、話したいこともなかなか伝えられません。実際は、早く皆さんと友達になりたいと心から思っています。皆さんとたくさん会話ができ互いを理解できるように、私は日本語の勉強をもっと頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。

寮生会活動について

寮生自治と寮生会活動

電子制御工学科4年 寮長
片山 晃次郎

寮長の電子制御工学科4年の片山と申します。この度は学生寮の代表として寮生会の紹介をさせていただきます。

沼津高専学生寮は、単なる厚生施設ではなく、教育目標にある「人柄の良い技術者」となれるよう訓練を積む教育寮です。その主体となるのが「寮生会」です。

寮では、現在560余名の寮生が生活しています。その全員が寮生会に所属し、寮運営に関わっています。上級生の指導役員はもちろん、1・2年生も奉仕作業や駐輪場他の清掃などの形で寮に貢献しています。また挨拶や礼儀からインターネットモラルやメモの取り方まで、下級生への指導内容は多岐に渡ります。

私たち寮生は、寮務主事、寮監の先生はじめ沢山の先生方や職員の皆様にお世話になっています。しかし常に沢山の先生方が寮に居られる訳ではありません。そのため、出来る限り寮生自身が寮運営を行っていかねばなりません。例えば寮生活の規則の立案などは原則として寮生会が行っています。今年度は情報機器の発達に伴

う持込制限規則の変更や部活動参加者の入浴時間の変更などを行っています。また、深夜体調不良者が出た場合などは上級生が病院に連れて行きます。

もちろん、寮生の力では実現できないことも多くあります。お金のことや、外部の方々に関わることは寮生だけの力では不可能です。しかし私たちは、「自分達で出来



ることは自分達で行う」寮生自治を目標とし、またそのことを誇りにしています。そうした寮生の自立と相互の協調が自分たちを成長させ、将来社会に出たときに必ず役に立つからです。保護者の方々にはご心配をおかけすることも多々あると思いますが、どうかご支援をお願いしたいと思います。



第21回ヤンマー学生懸賞論文部門優秀賞受賞報告

ヤンマー学生懸賞論文部門 優秀賞を受賞して

電子制御工学科5年 高村 嘉門

昨年の夏、私はヤンマー株式会社が主催している学生懸賞論文コンクールに応募し、優秀賞というすばらしい賞をいただきました。私の論文は“林業ロボットを作ろう”というタイトルで、内容としては、現在国内において衰退する一方である林業に対して、その重要性を踏まえロボットによる自動化を行うことで、国土山林を維持し、ひいてはCO₂問題に対する対策として成立させることを目標とするという趣旨の論文でした。

今回、私が投稿した論文にて論じた内容は、費用対効

果の面や林業ロボットそのものの実現可能性などの各方面において現実味の乏しい稚拙な夢物語のような論文でした。しかし、それにもかかわらず優秀賞という立派な賞をいただくことができたということは課題提起としての面や、あるいは将来性などが評価されたのでしょう。入選発表会ではひどく緊張しました。この論文コンクールでは、最終的に各論文に与える賞を入選発表会当日に決定されるようで、発表されるまでは自分がどんな賞をもらったのかも分からないのです。書類上は似たような年齢に見えても実際は一回りも年の離れた大学生の皆さんに混じり、ちょっとテーマとずれた論文をちょっとずれた立場で待つという、自分が場違いなのではないかという感覚は他では味わえないものだったと思います。



私の高専時代



高専時代の思い出

機械工学科

西田 友久

沼津高専を卒業して早30年以上経ち、クラス会等で友人達と会話すると、時代は途端に“昭和”に戻り、高専5年間での授業や寮生活等を通していろいろな事を学習・経験し、素晴らしい人達とも出会ったことが昨日のこのように甦ってきます。当時、本校は機械工学科2クラス、電気工学科（現：電気電子工学科）、工業化学科（現：物質工学科）の合計3学科4クラスで、全校学生は約800人。その中で女子学生は3人というバンカラな雰囲気为学校でした。

入学と同時に寮生活が始まりました。寮内は原則4人1室で、先生が住んでいるのでは（？）と思えるほど上級生が大人びて見えました。最初の1ヶ月は修学旅行の再来で楽しく生活したのですが、5月頃から、規則、試験のプレッシャーに加え、全く異なった環境で育った人間が同じ空間で生活するのですから、我が儘や不満も出てきて、いらいらしたりすることが多くなりました。しかし、3年生の階長を中心とした先輩達がそんな不安を抱えた1年生の勉学や生活の世話を温かく、そして時には厳しく指導してくれました。本当に有難く、その時の先輩とは現在でも付き合いが続いています。

次に印象的であったのはクラブ活動です。友人から心と体を整えることのできる“少林寺拳法”について教わり、道場通いが始まりました。次第に仲間が増え、「高専に少林寺拳法部を設立しよう！」という話が持ち上がり、2年次に同好会、翌年にはクラブとして認められるようになり、四国での本山合宿に参加したり、他校との交流戦も行ったりするようになりました。当時は決められた練習場がありませんでしたので、通路、屋上または東名高速道路付近の芝生で、暑さや寒さに負けず懸命に練習したことが懐かしく思い出されます。クラブ活動では体力・忍耐力の向上はもちろんの事、精神的にも大いに鍛えられ、多くの友人・知人もできました。

高専祭もまた忘れられない出来事です。5年次では高専祭の総括を務める傍ら、前々から計画していた「ホバークラフトの製作」と「長泉町役場から下土狩駅までの仮

装パレード」を実施しました。ホバークラフトの製作は4年次の夏から数名を中心に設計を始め、費用についての検討も行いました。浮上および推進用の空冷エンジン（トヨタパブリカ800の中古品）を購入し、機体作りに取り掛かりましたが、バランスや方向指示等なかなか思うようには進みませんでした。試行錯誤の上、10月にホバークラフトがやっと浮上したときは全員が諸手を上げて喜び、“ものづくりの面白さ”を実感しました。高専祭ではお客さんに乗せてグラウンドで走行し、大量の砂塵を発生しながらも大好評でした。

いよいよ進路の決定についてですが、当時、編入学と就職はいずれも試験が10月頃から始まりました。進学状況は私達の代から長岡と豊橋に技術科学大学が開校されることになり、進学への道が大きく広がりましたが、それでも進学率は1割強でした。一方、就職状況はオイルショックの煽りがあったため“かなりの狭き門”となり、全員の進路が決まったのは2月に入ってからでした。そのような厳しい状況を乗り越えながら卒業研究に没頭し、卒業式では「この学年でもう1年一緒に生活したい！」という学生が何人も出たことを覚えています。

このように振り返ってみると、15歳から20歳までの5年間は勉学、寮生活やクラブ活動等々を通して紆余曲折があり、その都度、恩師、先輩、友人達に相談し、叱咤激励されながら大きく成長した時期でした。“少年老い易く、学成り難し”とはよく言ったもので、若いうちにいろいろな経験をし、失敗も含めて多くを学んでほしいものです。高専での5年間、時代は変わり一人一人経験することは異なっても、かけがえのない日々であることに違いありません。沼津高専を選んで入学してきた学生達の先輩であり教員である私は、学生が充実した思い出多き日々を送れるよう尽力する所存ですので、ご支援とご協力の程、宜しく願い申し上げます。

付記：今年3月11日の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、当日、機械工学科3年生のメーリングリストを通じて「地震で大丈夫？」「高専祭のバザーで得たお金を寄付しない？」や「今晚、家に帰れなくて困っている人、ウチに泊まっていよ！（送迎および飯付き）」等々の内容が飛び交い、全員一致で4万円を日本赤十字社に義援金として寄付した学生達の行動力と優しさに触れ、担任として頼もしく感じました。

教育後援会から

会長就任のご挨拶

教育後援会会長（E5）川口 淳子

本年度会長に就任しました川口です。保護者の皆様の代表として、この大役を誠心誠意努めさせていただき所存で御座います。これから一年間ご指導ご協力の程、宜しくお願い致します。

後援会の目的・事業については、総会資料の最後に会則がありますので、詳しくはそちらをご覧ください記載されている事業を、柳下校長先生始め教職員の方々と話し合い、協議をしながら、学生にとって最善の方策を考えていきたいと思っております。

新1年生にとっては、入学直前の東日本大震災は直接の被災は免れたものの、実際に今後の寮生活を始めるにあたり、新生活に対する喜びや希望だけでは無く、多少なりとも不安を感じずにはいられないであろうと、お気持ちをお察いたします。御父兄におかれましても、15年間生活を共にした子供を手元から離して別々の生活を送る事にそれまでは考えもしなかった思いが、湧き出したのではないのでしょうか？

新世界へ

電子制御工学科1年 保護者 岡田 浩孝

知らなかった。中学3年最初の面談を行うまで、自分の娘が沼津高専を進路希望としたキッカケを。何て親だろう？しかし、話を聞けば、小学5年生の時に担任の先生から「沼津高専という学校は、素晴らしいところだ。5年間の一貫教育であり、専門的な知識を学べ、しかも寮生活である。」という話を受け、娘にとっては専門的な知識を学べることと、寮生活という事にとっても魅力を感じていたらしい。娘からは、「話したけど仕事で忙しくて、憶えていないだけじゃん」と、バツサリ。笑うしかない。私自身、沼津高専の事は良く知らない人間であるが、専門的な知識を学ぶことに興味を抱いた娘であったことを、今では嬉しく思う。

GDP世界第3位と、日本経済が停滞傾向にある昨今、米国でも有人宇宙開発計画の断念など、経済情勢悪化に伴う見直しもされている。本来、宇宙技術の発展から、我々の生活に直結した電子機器などに技術提供されていることから見ても、とても残念な事である。熟成した先進国でも、経済発展が困難な状況下にある中、混迷の時代へ突入するであろう日本において必要とされているこ

しかし、私が昨年までの4年間沼津高専を見てきて、教職員の方々の学生に対する思いやりは、父兄の思いに限りなく近く、学生一人ひとりがルールを守る事を前提に、極力住み心地の良い学生寮をお考え頂いていますので、最低でも一年間の寮生活を送るのについては、自分にとってプラスになること“大”であると思われまます。共同生活で培った事は社会に出てからも是非活かして頂きたいと思えます。それは経験した全ての学生の皆さんにお伝えしたい事でありまます。

5年間の学校生活後は、それぞれの道をまた選択していく事となります。大学進学、専攻科進学、就職と既に5年生は自分の進む道を選び、早い学生さんでは既に就職が決定している方もいます。大学進学を希望している方はこれからですが、今後の事は近年続いている就職難や経済的な日本の落ち込みを考慮しつつ、震災被害にあった地域だけではなく「明るい日本、頑張れ日本」を我が事と意識しつつ、是非夢を実現出来る、近づいていける様に努力を惜しまずに頑張っていって欲しいと思えます。

来年は沼津高専創立50年の記念の年となります。これからは素晴らしい沼津高専に興味を持ち、入学出来る生徒が一人でも増える事を願い、私の挨拶と代えさせていただきます。

とは、人材育成以外に他ならないと考える。資源なき日本において、理数系の人材育成・成長は、日本を支える意味で多くの意味を持つ。これが3月11日の東日本大震災を受けてからは尚一層浮き彫りになったことは明らかで、技術力向上はMUSTと言うべきである。（この場をお借りして、被災地の方々に、心よりお見舞い申し上げます。）自然エネルギーからの発電、どのような環境でも繋がる携帯、津波でも浸水せずに浮き上がる車など、そんな事ができていたらと思える事は様々である。

地球環境においても同じである。北極圏の氷河。氷床が溶ける事での海面上昇は温暖化の影響そのものでもあり、事実、ベネチアの中央広場であるサンマルコ広場は、満潮の際には、大きく浸水する回数が増加している事にも影響している程だ。今こそ様々な分野で、新しい技術が求められ、その技術を身につける事が急務となる時代へ突入したと言える。

だからこそ、子供達には視野を広く、些細なことへの探究心を強めて欲しいと考える。時代の変化・環境の変化など、対応すべき事が多い学習環境の中で、常に夢、ビジョン（目標）を定め、前を向いて欲しい。夢をみるためにも「現実的に・直視する目を養う」ことが大切だと私は思う。なぜなら、既存の事象を知らずして創造は成し得ないと思うからである。

さらには、協調性、チームワークは何にもまして必要

だ。世界の一流プロスポーツチームの選手における「共通している言葉」に、「個々が自分の役割を果たす。その為に自分の出来る努力を最大限にする」。それこそが、力の結集・結束、勝利への導き、すなわちチームワークに繋がるという事だ。謙虚な姿勢で、客観的に物事を捉え、現実的な目を持って、新たな創造に繋げる為には、自分達周囲の人（先生・先輩・後輩・友人）の支えや助言を受け入れることは大切である。それはあらゆる分野でも共通して言えることだけに、娘の大好きな東方神起や少女時代のPVを流しながらこんな話をした経緯がある。（自分もファンだ）

新しい未来を創造するのは、これから君たちであり、

かわいい子には旅をさせろ

制御情報工学科1年 保護者 鈴木直人

「えっ、父さんより背が高くなったんじゃないの？」5月の連休に帰ってきた息子は、ぐっすりと眠りこみました。これでもかというほど眠った後、息子はむくりと起き上がり、キャッチボール、腕相撲、更には背比べまで父親に付き合ってくれました。4月の初めには、確かに私より小さかった息子ですが、1か月のうちに私の背を越していました。

15歳、体もそして心も大きく成長するときです。息子は、この15歳から20歳までの多感な時期を沼津高専で過ごすことになります。この時期は、人生の基礎を培う時期と言っても過言ではない大切な時だと思えます。さらに、我が家は浜松にありますので、全て親元を離れての生活となります。まさに、自立、自律に向けての試行錯誤の時期となることでしょう。

実は、今年、沼津高専に入学させていただいた息子の兄も沼津高専生です。息子が沼津高専を進路に選んだ理由の1つはこの兄の影響だと思えます。息子は自分のやりたいことを兄に話し、高専の中で、どの科が自分に合っているか相談していたようです。

沼津高専には私の近隣の同世代の方たちも進学されており、存在そのものは知っていました。ところが遠いところにある学校ですので、「寮制がある学校」程度の認識でした。上の息子が入って改めて沼津高専を知ることになりました。

素敵なおとこだと思えました。学業の内容については、私は門外漢ですので、よく分かりません。きっとすごい

今の日本だからこそ、歴史的に見ても、新しい技術革新が生まれる機会だと思う。「勉強」することは『次の世代に繋ぐため』と、娘に伝えたことがある。よりたくさんの人と関わり、たくさんの知識を身につけ、ビジョンを持って、日本の資源である「技術」の発展に寄与し、東日本大震災を受けた今こそ、日本の力・誇りを発揮して欲しい。その中で、自らの役割、自らの進むべき道、次の世代に繋ぐものとしての役割を、自分自身の成長とともに、決断できる人間となって欲しい。

その為には、私たちも、親である前に1人の成人として、謙虚にモラル・モラールについて考え直す事が重要であると、自分自身が得た教訓としても言える事だ。

なのでしょう。でも、特に寮の生活に関しては、素敵なおとこだと感じています。まずは、初期の「携帯電話の禁止」、これはいいです。「テレビからの隔離」、これも素晴らしい。寮制ですから当たり前のことですが、「親からの隔離」、なかなか普通ではできにくいことです。今の世にはできにくい「規制」の中で暮らすということは、友や先輩と語る時間が生まれるということです。また、「足りていること」に改めて気づくことだと思います。数十年タイムスリップして、昔懐かしい時代に戻った感もします。寮の運営を先輩の方々が一生懸命運営されていることもよく感じ取ることができます。多感なこの時期に、同世代の友と触れ合い、語り合うことが今後の生き方の基礎を作る糧に必ずなると感じています。

息子たちは帰ってくるたび私たち家族に「ありがとう」という言葉を多く言うようになりました。「足りていることのありがたさ」に気付かせてもらったんだと感じます。物質的な豊かさ、親のケアなどは空気のようなものです。「あって当たり前」の時にはなかなか気づくことはできません。「かわいい子には旅をさせろ」という言葉を聞いたことがあります。親は子どもを育て、鍛えなくてはいけません。でも、すべてを教え込むことは不可能です。親としても不安の中、子どもたちを送り出すわけですが、子どもたちが自分で考えて生きていく経験を経ることが子どもたちを大きく育てることにつながると思っています。「かわいい子には旅をさせろ」とはこんな意味かなと考えているこの頃です。

最後になりましたが、わがまま放題に育てた息子を生活全般にわたってご指導いただく先生方には本当に感謝の念でいっぱいです。ありがとうございます。そして、今後ともよろしくお祈りします。

事務部から

平成23年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学的意思を固めていただくことを目的としました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、

学生会企画及びクラブ紹介、進学相談、学内施設紹介などです。保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学説明会は、午前と午後の2回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月20日(木)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1日体験入学

記

1. 日 時 **平成23年8月6日(土) 9:00～15:00**
2. 場 所 **沼津工業高等専門学校全域**
3. 実施内容

(1) 進学説明会	(2) 進学相談コーナー
(3) 各学科・専攻科紹介	(4) 学内施設紹介
(5) 学生会企画及びクラブ紹介	(6) 学生寮食事体験
(7) その他	
4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/lecture.html

平成23年度(8月~3月)行事予定表

平成23年

- 8月** 2日(火) 専攻科外部単位認定申請 (4日まで)
 3日(水) 大掃除・諸注意
 4日(木) 夏季休業 (9月22日まで)
 5日(金) 専攻科前期終了
 6日(土) 1日体験入学
 13日(土) 全国高専体育大会 (14日まで)
 17日(水) 全国高専体育大会 (24日まで)
 18日(木) 編入学試験
 22日(月) 全国高専将棋大会 (24日まで)
 23日(火) 編入学試験合格発表
 30日(火) 編入学予定学生説明会
 31日(水) 校内英語スピーチコンテスト
- 9月** 4日(日) 進学説明会 (小田原市)
 11日(日) 進学説明会 (浜松市)
 22日(水) 寮生リーダー研修 (24日まで)
 26日(月) 授業再開
 専攻科後期授業開始
 専攻科ガイダンス (30日まで)
 30日(金) 専攻科前期修了式
- 10月** 2日(日) 中学生のための体験授業
 3日(月) 後期授業開始
 5日(水) 4年工場見学 (7日まで)
 14日(金) 2年特別研修
 20日(木) 体育祭・学生総会
 進学説明会 (本校)
 専攻科月曜振替授業
 30日(日) ロボコン東海北陸地区大会
- 11月** 1日(火) 木曜振替授業
 2日(水) 1~4年文化講演会 (午後)
 4日(金) 高専祭準備
 専攻科火曜振替授業
 5日(土) 高専祭・体験授業 (6日まで)
 6日(日) 東海地区高専ラグビー大会
 7日(月) 高専祭片付け
 14日(月) 授業参観・学科説明会 (18日まで)
 20日(日) ロボコン全国大会
 26日(土) 1・2年TOEIC Bridgeテスト
 3・4年TOEIC IPテスト
- 12月** 1日(水) 1~4年一般共通科目中間試験 (2日まで)
 2日(金) テクノフォーラム
 8日(水) 専攻科入学説明会 (予定)
 10日(土) 4年工学系数学統一試験

- 14日(水) 3年課外教育特別講演
 22日(水) 1・2時限授業
 大掃除・諸注意
 留学生交流会 (24日まで)
 26日(月) 冬季休業 (1月4日まで)

平成24年

- 1月** 3日(火) 全国高専ラグビー大会 (4日まで)
 5日(木) 授業再開
 7日(土) 中部近畿地区高専将棋大会 (8日まで)
 8日(日) 全国高専ラグビー大会
 10日(火) 金曜振替授業
 12日(木) 3年到達度試験 (数学・物理)
 14日(土) 専攻科研究発表会
 16日(月) 専攻科研究・学習発表会 (午後)
 17日(火) 専攻科研究・学習発表会 (午後)
 19日(木) 専攻科後期試験 (2月1日まで)
 22日(日) 推薦入試
 23日(月) 3年合宿研修 (25日まで)
- 2月** 1日(水) 3年インターンシップ説明会
 2日(木) 専攻科外部単位認定申請 (6日まで)
 7日(火) クラブ合宿説明会
 専攻科後期終了
 8日(水) 学年末試験 (14日まで)
 19日(日) 学力入試
 20日(月) 臨時休業・入試採点
 22日(水) 月曜振替授業
 23日(木) 5年卒業研究 (29日まで)
 大掃除・終業式
 24日(金) 入学者選抜合格発表
 臨時休業 (3月15日まで)
- 3月** 1日(水) 寮生リーダー研修 (3日まで)
 5年卒業研究発表 (2日まで)
 入学説明会 (予定)
 専攻科臨時休業 (3月15日まで)
 7日(木) 5年卒業判定会議
 14日(水) 1~4年進級判定会議
 16日(金) 開校記念日振替休業
 17日(土) 卒業式・修了式
 19日(月) 学年末休業 (30日まで)